社会福祉法人西陣会のロゴに込められた想い

「西陣会のロゴを一緒に考えませんか?」

お声がけを頂いた時、非常に光栄なご依頼であると共に、この西陣地区で60年地域の為に尽力されたこの組織のロゴをどのように表現させてもらえば良いか悩みました。

60年の歴史を紐解きつつ、西陣会は人々の繋がり、そして集まりである場、温かい「ホーム・家」である事を強く感じ、「西」という漢字を「ホーム・家」見立てるというアプローチからこのロゴ設計は始まりました。

西陣会の根底に流れているキリスト教の精神、それはいつでも誰にでも開かれている教会でもあり、みんなにとっての「ホーム・家」になるのではないのか。実はこのロゴの右下は、繋がっておらず常に開いています。それはこの「ホーム・家」がいつでもだれにでも開かれている場を表現しているのです。

全体的に丸みのある優しいラインの形状になっていますが、アルファベットの「i」の部分はこの場に集まっている人々を意味します。

この優しい場と人々がこの西陣という地域で更に愛される場なることを願って止みません。

三ツ木 隆将 / three trees design

西陣会

NiSHiJiN・KAi

編集後記

これまで、西陣会は 10 周年単位で「記念誌」を発行してきました。編集担当になって初めにしたことは、これまでの記念誌を読むことでした。いずれの記念誌も共通して、現在 (発行当時) 転機を迎えていて、これまでを振り返り、これからを展望することの重要性が書かれていました。改めて、なかなか責任ある役割を引き受けてしまったものだなと思いつつ、次に考えたことは編集方針でした。

各事業管理者が集まって毎月実施している施設長会議にて、次のような編集方針が確認されました。

・この 10 年間の動きがわかるような内容にしたい
・法人設立前や当初のことも当事者から教えてもらいたい
・西陣会のことを知らない人にも届けたい

そこまで決まったら、さいごはどんなスタイルでつくるかということだけでした。これまでの記念誌を知る方からは、かなり違和感があったのではないでしょうか。すでにお気づきだとは思いますが、次のような前例のないスタイルになりました。

・そもそも「記念誌」じゃない
・えらい人のあいさつ文がない
・寄稿文がない
・モノクロ印刷じゃない
・自分たちだけでつくらない

「記念新聞」というかたちで、すべて取材をしたうえで原稿を執筆・推敲し、デザイナーの力を借りて本紙は完成しました。10 年後や 20 年後に振り返ってみたときに、どのように映るのでしょう。その判断は、その時の人たちに委ねたいと思います。

そもそも編集後記とは、紙面上で書けなかったことや編集上の苦労やエピソードを書くところだそうです。何か書き残したことがないかと考えたときに、思い出したことがありました。今から 20 年前に発行された「40 周年記念誌」に故深田未来生先生が残された文章が、今も私のなかで響いています。その文章 (全文) をご紹介して結びにかえたいと思います。まだまだこれからです。

編集担当：小西秀和

「木は一本ずつ違うけれども」

深田 未来生

1995 年に亡くなった西岡常一さんの本を読んだことがあります。最後の宮大工といわれた西岡さんは薬師寺の復興工事にもかかわった優れた職人で、仕事に熱心、謙虚な人だったそうです。「木と話す」ことを信条とし、一本一本の木にどんな癖があってもその良さを見出し、それにあった使い方を志していた、と弟子の一人が記しています。癖のある木を使うのはやっかいだが、使い方によってその癖が生きる、と。西岡さんは「癖の強いやつほど命も強い…癖のない素直な木は弱い、人間も同じだ」と話っています。西岡さんの仕事ぶりを見た人は、西岡さんが一人コツコツと一本の木のよさを見極め、木造作業を続けた姿に深い感銘を受けたと話しています。

私たちのセンターの歴史は 40 年を超えました。建物が建って 40 年ですからその根っこになるのはそれより数年前に生え始めていたのです。振り返って見ると様々な木がセンターで育っていきました。もちろん今も育ち、育てられています。多くは癖のある木です。やっかいな癖もあるでしょう。癖はないけど弱い木もあるかもしれません。どちらにしても大工の西岡さんが言ったように癖にはそれなりの可能性があり、お互いそれを認め合って生かしていくと強い木も弱い木も支えあいながら伸びていけるのです。

私は植木屋さんの仕事を見るのが好きです。接する木一本を見つめながら、考えつつ枝を切ります。むやみに剪定するのではありません。その木の種類や、成長の状態、予想される天候などを見極めながら元気に成長するように切ります。何か最近の植木屋さんは仕事が速くなり、昔のようにじっくりと木を眺めながら仕事をしてくれないような気がします。能率が優先するからでしょう。

センターの働きは能率やスピードを第一に考えているとすすめられないものです。時間をかけて、一本一本の木を見つめながら不必要な枝をおろし、癖を生かしながらその木がその木らしく成長していくことを手助けする「古典的」植木屋さんのように、一人一人の人間を大切にしてこそセンターの存在意義に沿った働きができるのです。

「人」を「植える」のは「百年の謀 (はかりごと)」と言われます。センターは 40 年の歩みを続けてきました。まだまだこれからです。皆でちからを合わせて歩み続けましょう。

（社会福祉法人西陣会 40 周年記念誌より）

発行日	2022 年 11 月 27 日
発行元	社会福祉法人西陣会
住所	〒602-8464 京都市上京区元誓願寺通千本東入る元四丁目 430-2
電話番号	075-451-8971
編集	山本 みちる　小西 秀和
デザイン	三ツ木 隆将 / three trees design
校正	湯川 力樹

60 years

社会福祉法人西陣会設立60周年記念新聞

社会福祉法人
西陣会

CONTENTS

01. ここで働きはじめて10年
02. じぶんらしく暮らす
03. どれだけ想像できるのか
04. 地域のなかでつながる
05. 子育て応援ネットワーク
06. HAPPY BIRTHDAY 西陣児童館
07. また会える日まで
08. 西陣会年表 2012～2022
09. 2022年、西陣会の現在地
10. おおきなピーポの樹の下で
11. ボランティア!?
12. 「センター」のレガシー
13. 僕らはきっとね、変化を求めてる
14. ロゴに込められた想い/編集後記

ここで働きはじめて10年

60周年記念新聞作成にあたって、この10年間のいろいろなトピックスの他に、職員同士が自然体で話をしている内容も掲載することになりました。誰が話すのが適任なんだろう‥‥と、想い巡らせた結果、ちょうど10年前、西陣会が50周年のときに入職した人たちにお願いすることになりました。実は、あと二人登場する予定だったのですが、新型コロナウイルスの影響やご家庭の事情もあって、10年前に入職した全員で話をすることは叶いませんでした。

しかし、お話いただいた内容は紙面に収まり切れないボリュームで、話が尽きることはありませんでした。編集担当者としては、西陣会に20年以上勤めている管理者たちが話をするよりも、この10年間の西陣会の雰囲気が伝わる内容になったのではないかと思っています。ナビゲーターは、だいたい20年前に入職した聞き上手な近藤さんです。

下口 早蓉子

西陣会居宅サービス係
サービス提供責任者
ネイバーフッドきたまちの宿直にも入っている。

恒川 夏奈

デイセンターふらっと
ユニット①リーダー
ショートステイゆうと兼務している。

近藤 隆平

西陣会居宅サービス係主任
ネイバーフッドきたまちも担当している。

覚えてる？10年前

近藤 今日は高田さんと尾崎さんが欠席になってしまって残念やけど、お二人と話ができるのを楽しみにしてました！

恒川 事前になにも考えてきてないですけど(笑)

下口 よろしくお願いします！

近藤 10年前に、ここで働きはじめた時のことって覚えてる？

恒川 わりと覚えていて、先輩職員はやさしいし、利用者さんも笑顔で受け入れてくださる感じがあって、ここで長くがんばっていこうっていう感じだったと思いますね。

近藤 模範解答やね(笑)

一同 (笑)

近藤 下口さんはどうですか？

下口 結構、先輩方がびっくりするくらい質問攻めみたいな(笑)、話しやすい雰囲気をつくってくださって、むっちゃありがたいなって。

近藤 先輩たちも嬉しかったんやと思う。

下口 あと、学校の先生が「西陣会はあなたにピッタリなところよ」って薦めてもらえたってのもあって、本当にハマりました(笑)

近藤 ハマりましたかー(笑)

下口 それから10年、こんなに続くと思ってなかったです(笑)、はい。

恒川 ほんと、あっという間でしたよね。

近藤 10年前って、キャリアパスとかもなかってちゃんとできてなかったところもあるけど。

こうやってね、10年残ってくれて本当にね、ありがとうございます(笑)

一同 (笑)

恒川 ホントよくしてもらったと思います。

近藤 あっ、そう？

恒川 同期がいっぱい入って、一緒に相談しながらやってたっていう感じも良かったです。

近藤 同期って呼べる同期がちゃんといるのも、いいかもね。

下口 なんかあっても、「今日こんなことあって～」、みたいな。懐かしい～。

恒川 ねえ。でも、こうやってゆっくり下口さんと話すのは久しぶり。

下口 お互い違う部署だと、なかなか事務所で会うこともないもんね～。

近藤 今日は久しぶりの同期会ってことで(笑)

印象深い出来事は？

近藤 この10年は、生活の場がどんどん増えていった感じですよね。2013年にグループホームとショートステイが、2015年にシェアハウス、2018年にはきたまちに新拠点が出来て‥‥まあ、すごいですね。

二人 ねえ。

近藤 そんなところが大きなところかなと思うんですけど、印象に残ってる出来事を聞かせてもらえたらなぁと。

下口 え～、印象に残ってる出来事‥‥。

恒川 いっぱいある(笑)

近藤 たしかにいっぱいある(笑)

下口 近藤さんの印象に残ってる出来事は？

近藤 逆質問(笑) え～、う～ん‥‥。

近藤 う～ん、そう、やっぱ思い出すのは利用者さんのことばっかやな～。西陣会での出来事で考えると？

恒川 ショートステイゆうができたのは、やっぱり大きかったですかね。

近藤 そうやんな～。

恒川 デイの利用者さん以外の方と関わることが増えたり、デイ以外の仕事をすることで勉強になりました。

近藤 ゆうは、デイが終わってからの時間帯だし、宿泊もあるからね。

恒川 日中活動のデイでかかわっている利用者さんも、ゆうではこんな風に過ごしてるとか、デイにいるだけではわからないことだなって。あと、居宅のヘルパーに入らせてもらってた時期があったのも、ちょっと大変やったけど(笑)、すごく勉強になりました。

近藤 その節は、ありがとうございました(笑)

恒川 いえ、でもホントに。部署関係なく支え合えると利用者さんにとってもプラスになると思います。デイも、ユニット関係なくもっと関わっていきたいと思っています。

近藤 下口さんは、なんか思いついた？

下口 いくつもあるから、どれを選ぼうかなって。私が入職した1年目は居宅とうぃずの兼務で、すごく濃かったです。

近藤 そうだったね。

下口 2年目からは居宅だけになって寂しかったんですけど(笑) ヘルパーで一番長く関わっている方で、初めて出会ったのが3歳だったんです。

近藤 ほう。

下口 そんなちっちゃい子を抱っこしたこともなかったから、緊張して筋肉痛になりました(笑)

近藤 筋肉痛!?

下口 今ではその子が小学校6年生で、10年間日々の成長を間近で見続けられてるっていうのは私のなかではすごく大きくて。

近藤 うんうん。

下口 あとは宿直に入るようになったのも、大きかったですね。ふだんは日勤やったのが、夜の時間に家を出て泊まるっていうのは。

近藤 そやね。

下口 めっちゃ夜苦手なんで起きられるかなって不安もあったんですけど、皆さんの生活をちょっとは支えられたらって思いながら、頑張れたらいいかなって。

いま思っていること

近藤 話し出すと、いろいろ出てきますね～。二人とも働いて10年の間に先輩になって立場も変わってきましたよね。恒川さんがデイのユニットリーダーになったのはいつでしたっけ？

恒川 一昨年でしたかね。

近藤 気持ちの変化みたいなものは？

恒川 そうですねぇ。リーダーになったのがきっかけじゃないと思うんですけど、ある時から思っていることがあって。

近藤 どんなことを？

恒川 昔は利用者さんのためにっていう思いが強すぎて、他の職員さんがちょっとミスをされていると、イラっとしてしまっていて‥‥。

近藤 そうやったんやぁ。

恒川 でもある時から、職員さんも大切に思うようになって。ミスもその人が悪いとかではなくて、どうやったらミスがなくなるか考えられるようになったというか。

近藤 へ～。

恒川 先輩職員から学んだことを自分の中に落とし込んで、自分の形ができたというか。ここから自分を始めるって感じですかね。

近藤 いいですねぇ。下口さんは今年からサービス提供責任者になりましたね。

下口 はい。すごく大きい変化です！責任ある立場になったということもあるんですけど、溜まってる業務をどうするかってことしか頭にないんですよ、今(笑)

近藤 具体的な悩み(笑) そこは、いろいろアイデアあるから、またお伝えしますね。

下口 ありがとうございます。そう言えば、最近、デイの現場に入らせてもらった事は新鮮でした。

近藤 新鮮って？

下口 他部署の支援現場に入る事ってここ数年なかったというのもあるんですけど、ヘルパーに入る時以外の利用者さんの姿って新鮮で、もっともっと知れたらいいなぁって思いました。

近藤 サービス提供責任者だからというわけじゃないけど、居宅だけ、デイだけとかじゃなくて、西陣会の職員としてみんながみんなのこと知っていけたら、もっとね、西陣会が良くなっていくんかなって思いました。はい、終わり。

一同 ええ!?(笑)

恒川 すごい締め方(笑)

下口 ありがとうございました(笑)

近藤 これからも、よろしくお願いしますっ！

取材日：2022年8月23日

じぶんらしく暮らす

「シェアハウス小松原の家」にご子息の和也さんが入居されている。日中は同法人が運営する「デイセンターふらっと」に通所。月～金はシェアハウスで寝泊りし、土日はご実家で過ごされている。

シェアハウスとは？

西陣会が独自におこなっている事業。一軒家の賃貸住宅を活用し、現在2名の方が生活している。リビングや風呂などは共用で、各自に寝室等のプライベートスペースがある。ヘルパーが食事や入浴などの必要な支援を提供し、夜間は宿直者を配置している。

宮川 和弘

「西陣会ホームきたまち」にご子息の晃至さんが入居されている。日中は同法人が運営する「デイセンターふらっと」に通所。月～金はグループホームで寝泊りし、週末はご実家でも過ごされている。

滋さんは、グループホームの支援員として活躍中。

グループホームとは？

障がいのある人が、日常生活上の介護や支援を受けながら共同生活を営む住居。グループホームで暮らす人に対し、支援を提供するサービスは「共同生活援助」と呼ばれ、障害者総合支援法が定める「障害福祉サービス」のひとつ。

隅水 滋

「ネイバーフッドきたまち」にご息女の瑠璃子さんが入居されている。日中は同法人が運営する「デイセンターふらっと」に通所。月～金はワンルームマンションで寝泊りし、土日はご実家で過ごされている。長子さんは、グループホームの世話人として活躍。

サービス付きワンルームマンションとは？

西陣会が独自におこなっている事業。グループホームの二階部分をワンルームマンションにして、入居者は一人暮らしをしている。シェアハウス同様、ヘルパーの支援を活用しながら生活しており、夜間は宿直者を配置している。

山崎 長子

佛教大学在学中に西陣会に出会い、ボランティアやアルバイトを経て就職。居宅サービス係でヘルパーとして活躍するかたわら、グループホームの立ち上げから携わる。

2020年からは居宅サービス係の所長も兼任しながら、ご利用者一人ひとりの地域生活支援と職員マネジメントに奮闘中。

西陣会居宅サービス係 所長
西陣会ホームとなり 副所長
西陣会ホームきたまち 副所長

赤尾 幸雄

はじまった居住支援

赤尾 今日はよろしくお願いします。この10年間を振り返ると、居住系の支援をはじめたことが、本当に大きな出来事だったなぁと思ってます。

宮川 はじめてグループホームができたのが2013年やもんな。

山崎 私も歳とるわけやわ(笑)

赤尾 僕も40歳になるんですよね。

宮川 息子と同い年やもんな。

赤尾 そうなんですよね。グループホームの担当になってから、あっという間に40歳になった気がします。まずは、皆さんから入居前のこと教えていただけたらと思ってます。

宮川 非常に荒れてましてね。息子が。ちょうど女房の心臓の手術もあったときでした。

赤尾 そうでしたね。

宮川 いつも朝起きてから、家に帰るまでを逆算しながら仕事してたんです。当然、なかなかお昼も食べられないし。私は今でも短気なんですけど、息子と同じようにやりあってましたね。

隅水 宮川さんとほぼ同じです。なんて言うのかな、我が家でも喧嘩というか、そんなこともありました。幼い頃はおとなしい子だったんですけどね。物を投げたり、手が出るようになって。

山崎 うちの場合は家の中を構造化してもらったんやけど、家には暮らしの文化があって、家で暮らし続ける限界を感じてた頃やなぁ。

赤尾 いろんなご事情があるなかで、入居の希望をされてたんですよね。

家から離れた生活

赤尾 実際、お子さんたちがそれぞれの暮らしをはじめたとき、不安じゃなかったですか？

宮川 不安いうんはね、正直なかったですね。入らせてもらえてホッとするような気持ちでした。

隅水 初回の申し込みの時はダメでした。家族で落ち込みました。でも、次のグループホームに決まったときは本当に喜びました。一切不安はなかったです。

山崎 私やって補欠当選やったし。

赤尾 入居を辞退された方がいて、そのあと決まったんでしたよね。

山崎 ずっと一緒に暮らしてて、実際に離れるってなったとき、不安な気持ちにもなるわなぁ。やっぱりもう少し一緒に暮らしたいとか。私もワンルームマンションを提案されたとき、不安やったんよ。

赤尾 山崎さんでも不安になるんですね(笑)

山崎 家よりも支援する人のスキルが高いことはわかってたけど、ワンルームマンションって一人暮らしでしょ？

赤尾 夜間に宿直者が別室にいますけど。

山崎 ヘルパーさんがいない一人のときに熱がでたらとか、お腹が痛くなったらどうするんやろって心配でした。今のところ、そういうトラブルがないんやけど。

赤尾 心配なお気持ち、わかります。

山崎 でもな、新型コロナウイルスに感染でもしたら隔離して治療してもらうとかできひんし、こういう状況やし、一人暮らしでよかったなぁと思ってます。

赤尾 離れて暮らしはじめて、なにか変化があったりしました？

宮川 離れて1ヵ月くらい経つと、暴力的なところが治まってビックリしました。土日は家に帰ってくるんですけど、1週間べったり息子の顔見ているより親も穏やかに接せられますね。気持ちに余裕が生まれるし。

隅水 私も接し方が柔らかくなって、お互いの関係がどんどん良くなりました。離れてから、子ども自身も良い方向に大きく変わったと思います。

山崎 ただ、私らがもっと歳とったら、土日に帰って来てもらいにくくなるんやろうなと思ったり。それは近い将来、確実にやってくることなんやけど。

赤尾 そうですよね。相談しながら考えていけたらと思っています。

暮らしのスタイル

赤尾 和也さんはシェアハウスのどんなところが気に入ってると思います？

宮川 少人数ってところかなぁ。あと、一緒に暮らす人の相性が大切やと思いますね。

赤尾 大人数は苦手やけど、一人やとさみしいタイプですもんね。

宮川 そうなんよ。あと家やったらやらんような料理の手伝いなんかしたりして。

赤尾 シェアハウスでは、ヘルパーさんとのかかわりがポイントですからね。

宮川 自分にもできることあるんや、っていうのがええんやろうね。家やと親がやってしまいますから。ヘルパーさんに感謝です。

赤尾 そのあたりはグループホームの世話人や支援員よりも、ヘルパーの方がじっくり関われると思います。

隅水 私、グループホームの支援員もやらせてもらっているんですが、ほんとに楽しいです。

赤尾 隅水さんは4人が入居されているグループホームで働いてくださってますもんね。山崎さんは6人が入居されている方の世話人として調理もしてくれていて、本当に助かってます。

宮川 いやあ、なかなかできるもんじゃない。

隅水 食事には、いつも感動してるんです！

山崎 彩りもいいし、メインに副菜が2つもあって、メニューもバラエティー豊かで。

赤尾 昔は冷凍の食材を仕入れてたんですけど、今はデイの管理栄養士兼調理員の方が食材を仕入れてくれてるんですよね。調理する手間は増えて世話人の皆さんにはご負担かけているんですが。食事はうちの自慢です。

隅水 うちの息子なんか、私がつくった夕食を放り投げてますから(笑) グループホームでは、きれいに食べているようで何よりです。

赤尾 瑠璃子さんは、集団で暮らすよりも一人暮らしが向いていると思うんですよね。

山崎 障害特性として好きなときにトイレが使えるとか、まわりの声がないとかは瑠璃子にあってると勧められました。

赤尾 お部屋も完全に構造化されてますもんね。(上右写真：棚にはスケジュールが貼られている)

山崎 ベストな暮らしはないと思うんやけど、それぞれの暮らしのスタイルってのがあるんやね。

もうひとつの家

赤尾 この10年、いろんな暮らしのスタイルがはじまったんですけど、まだまだ家は家やなぁと思ってるんですね。

隅水 家は家って？

赤尾 みんな実家が「家」やと思っていて、平日はお泊りに行ってて、週末は「家」に帰ると思ってるんじゃないかなぁって。

山崎 本当のところ、どう思ってるんやろうね。

宮川 うちの息子はね、逆やと思うんですよ。月曜日の朝、「今週は帰って来いひんで」って、私に捨て台詞吐くんですよ(笑)。

一同 (笑)

宮川 「それはさみしいね」って返すと、上から目線で「帰って来てあげるわ」って、私に言いよるんですよ。

赤尾 裏返しなんですよね。まだまだ実家が「家」なんですけど、実家以外に安心して暮らせる「もうひとつの家」になっていけたらと思ってます。今日はありがとうございました。

取材日：2021年12月13日

どれだけ想像できるのか

———この3人だけでお話するのって、初めてですよね。(2021年6月にお話しを伺いました)

宇川 ふだん会ってるんだけどね。きょうは、記念新聞の取材だよね? 早くない??

寺田 発行されるときには、みんなノーマスクかもしれませんね。

———早すぎてすいません。一年後の2022年冬頃に発行なんですが、取材の練習も兼ねて....。お二人は、相談支援専門員として、計画相談をされています。その共通点から聞かせてください。

計画相談って必要?

宇川 実は、そもそも計画相談って必要ないんじゃないかな、って前から思ってて。

寺田 え?

宇川 おれなんかじゃなくてさ、その人のことをきちんと考えてくださる人がいたら、その人の気持ちを汲んで、きちんと生活できるわけやん。

寺田 そうですね。僕も、そう思うことあります。1年後にこうなってたいとか計画を立てるんですけど....。

宇川 うん。

寺田 僕自身が、自分の1年後を考えて生きているわけではないし、誰かとの出会いで変わっていくこともあるだろうし。

宇川 だよね。

寺田 ガチガチに計画を立てるというより、夢とか話しながら寄り添えたらいいんだろなぁ、って思いながらやってる部分もありますね。

宇川 計画があるから、なにかができるわけではないんだよね。

寺田 はい。

宇川 あくまでも社会の側が、だれか責任をもつ人がいた方がうまくまわりますよね、って作られたもんじゃないかな。

寺田 そうかもしれません。僕は、主にデイセンターふらっとに通所されている方の計画をたてているんですけど....。

宇川 うん。

寺田 ふらっとにいる時間はもちろん、ご家族のこととか、ふらっとにいない時間のこととか、将来に向けた意向とか、いろんなことを計画に書くようにしていて....。

宇川 うんうん。支援はどうしても区切られた時間のなかでおこなわれているけど、その人の生活全体を知るためのツールだよね。計画って。

寺田 その人の身近にいる支援者たちと、どれだけコミュニケーションとってるかが大切だなって。ふだんから。なにか起こったときでも、お互いが気持ちよく動けるようにしたいなって思いながらやってます。

宇川 そういう意味では、計画って、この人を通じて地域や社会が豊かになっていくためのものでもあるんよね。だから、悩むのをやめて、とにかく動くこと。いろんな人たちと理解しあいながら、まず自分自身が変わっていくことが大事なんやと思うんよ。

この10年の変化?

———記念新聞では、西陣会が50周年を迎えて以降の、この10年を振り返る場にもなればと思っています。

寺田 西陣会にとっては、さまざまな居住の場が広がった 10 年なんだと思います。ショートステイやグループホーム、シェアハウス、サービス付き障害者住宅など....。

宇川 浅田将之さんの功績は、大きいよね。おれの場合、浅田さんも一緒に行ってた被災地支援のことになるんよね。この10年っていったら。

寺田 福島には、毎年行かれてましたよね。

宇川 この頃から、寺田さんもだけど、法人の職員から怖がられているよね?

寺田 僕は、違いますよ(笑)。

宇川 あの頃、福島のことを想像できひん人に、障害のある人の生活支えられるか? って思ってたんやわ。

寺田 どういうことですか?

宇川 障害のある人やご家族の生活は、決して楽ではないよね。うちらの仕事の本質って、そのしんどさをどれだけ想像できるかなんやと思う。

寺田 はい。

宇川 福島で障害のある人の生活を考えたとき、京都にいるうちらは、どれだけ安全な場所にいて、どれだけあたりまえに仕事をしているのかって思ってしまって....。

寺田 福島のことを、もっと知ってもらいたかったし、もっと関心を寄せてほしかった?

宇川 それもある。あの頃は、京都できちんとできひん奴が福島で活動なんて出来るわけないって、自分自身を追い込んでたんやと思う。

寺田 僕の場合も、この10年で計画相談やショートステイをはじめて、自分の仕事のやり方や立ち位置が変わったと思います。

宇川 でも、怖がられてるよね(笑)?

寺田 今は、違います! でも、他の人にも自分と同じ支援のレベルを求めていたことがあったんだなぁって。

宇川 でも、今は?

寺田 客観的に見ないといけないような立場になったとき、自分には自分の、その人にはその人の役割とかスキルがあると思うようになりました。

宇川 へえ。

寺田 大人になったんです。

———この10年間、お二人の内側でもさまざまな変化があったんですね。一方、外側の社会の変化は感じますか?

宇川 生活が大きく変わったのは、お子さんたちかな。「うぃず」ができたり、放課後等デイサービスが増えて、放課後や夏休みの相談がほとんどなくなった。

———これはすごい変化ですよね。

宇川 大人の方では、障害のある人の一人暮らしも、あたりまえのようにできるようになってきたのがすごいと思う。

———はい。

宇川 あとは、支援者側に変化があったのか? っていうことを考えてしまうよね....。

チームで成長する!

———相手のことを「どれだけ想像できるのか」ということって、いろんなことに通じそうです。

寺田 法人内外の人たちとチームで仕事をするようになって感じたのは、自分の限界や無力さだったんです。

宇川 なんで?

寺田 協力しあいながらやって初めて、できることがあるんだなぁって気づけたんです。

宇川 うちら相談支援は、特に法人外の人とチームを組んで支援していくことが多いからね。

寺田 法人内だけじゃなくて、法人外にも仲間がいるのが、心強いです。

宇川 法人内外を問わずにチームの良さって、お互い成長していける声かけができることなんやと思ってて....。

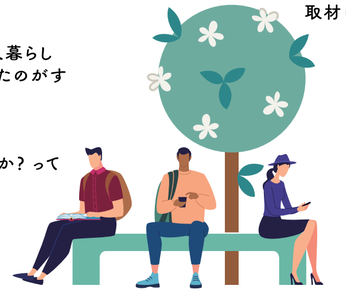
寺田 はい。

宇川 ご利用者さんも変わっていくし、うちらも成長していきながら、いっしょに歩んでいきたいよね。

寺田 そういうお互いが成長できる環境とか、チームをつくっていくことが、僕たちに求められてることなんでしょうね。

宇川 笑顔で、おもしろがりながらね。そうやってチームで成長していきたいよね。なかなかできてないんだけど(笑)

聞き手:小西秀和
取材日:2021年6月3日



相談支援ってなに?

「こんな暮らしを送りたい!」「でも、どうしたらできるのかな?」「困ったことがあるなあ、不安だなあ。」「これって、どうしたらいいんだろう?」

誰しもが、自分らしい暮らしを送りたいと願っています。国の障害者総合支援法という法律の中には、相談支援制度という、障害のある方が相談をすることができる仕組みがあります。

それぞれの想っていること、困ったことやわからないこと、手伝ってほしいことなどを相談でき ます。相談支援は、制度の中で相談先が分かれて おり、それぞれの市町村でも相談先が変わってきます。

今回の話の中に出てくる「計画相談支援」と は、その人が希望する生活の中で、どのような福祉サービスを利用することができるかを相談ができるところです。

計画相談支援には2種類あります。ひとつが、障害者総合支援法が定める福祉サービスを利用す るために、その人のサービス等利用計画案を作成して市町村に提出する「サービス利用支援」です。もうひとつが、その計画に合わせた利用をしていく中で利用状況にあっているかどうかを見直したり、直接支援を行うサービス事業者等との連絡や調整を行ったりする「継続サービス利用支援」があります。

この「計画相談を行うことができるのが、市町村長が指定した『指定特定相談支援事業者』」です。この指定特定相談支援事業者の相談支援員が、一人ひとりの希望や不安なことをお聞きし、どの福祉サービスが利用できるのかを提案させていただきます。(山本みちる)

宇川 征宏

社会福祉法人西陣会理事
支援センターにしじん センター長

同志社大学卒業後、地元香川県にある社会福祉法人奄雲あけぼの学園にて障害のある人への生活支援をおこなう。2004 年から西陣会で相談支援専 門員として活動、2007 年からセンター長となり、京都市全域の相談支援をリードする存在。

寺田 文

相談支援事業所きずな 所長
ショートステイゆう 所長

佛教大学在学中に西陣会でボランティアやアルバイトをはじめ、就職。デイセンターふらっとで 主に自閉症の方への支援に取り組む。法人で初めて取り組むショートステイや、相談支援も兼務するなど活動は多岐にわたる。

地域のなかで、つながる

地震 雷 火事 親父

宮崎 今日をたのしみにしていました。地域のプロフェッショナルのお二人からお話を伺える貴重な機会なので。

宮本 よろしくお願いいたします。

喜多 ちょうど役所から、学区内で適当な避難所を紹介してもらえないかって電話があって。

宮崎 ええ。

喜多 ちょうど知り合いにお寺さんがいたので。

宮崎 僕も東日本大震災で石巻に行ったときは、お寺や教会関係が地域に開放していましたね。

宮本 西陣会さん福祉避難所でもありますよね？

宮崎 はい。

宮本 小学校とかの避難所で障害のある方やご高齢の方で特別な配慮が必要な場合は、福祉避難所にお願いすることになるんですが、もっと議論を進めていきたいですね。

宮崎 うちも狭い場所なので、課題だらけです。

喜多 嘉楽(からく)学区の場合、水害は考えられないけど、地震や台風はいっぺんにきますんでね。災害がおこったときの連携プレイや準備は絶対やっていかなあかんなと思ってます。

宮崎 日頃の防災というところでは、喜多さんにお声かけいただいて、消防団に入れていただきました。

喜多 ちょうど消防団員が減ってきているときでね。二つ返事で引き受けてもらえたのが、うれしかったですね。

宮崎 夜間もご利用者の支援があったりして参加できる回数も少ないんですが、末席に名を連ねさせていただいているのはありがたいです。

宮本 喜多会長はいつから消防団に？

喜多 私は30歳過ぎてから、昭和55年だったかに入団させてもらいました。それまでは商売一筋だったんですけど、地域の年齢も仕事もさまざまな方と出会って、少しずつ地域に明るくなりましたね。

宮本 消防団でのご経験を経て、いまのご活躍があるんですね。

宮崎 消防団に入って、困ったときの相談先も増えましたね。怖いもののたとえで地震雷火事親父とか言いますけど、それだけに日頃からの備えほど大切なことはないと実感しています。

共通する大きな課題

宮崎 私たちの法人もですが、なかなか若い人たちが入って来にくい現状がありますよね。

宮本 特に京都市の場合は地域福祉活動の最小単位が町内会だったりするんですけど、町内会離れや高齢化で活動そのものが維持できないという話もあります。

喜多 私もね、商店街の理事長をやってこの2月で22年になりますからね。早く譲りたいと思う部分もあるんですけども‥‥。

宮崎 まだまだでしょう(笑) でも、次世代の方へどうバトンを渡していくかは、私たちの法人も、町内会も商店街も、大きな課題ですよね。

宮本 ただ、上京区は学区社協と自治活動が一体的につながっている強みがあると思います。

宮本 昭宏

京都市上京区社会福祉協議会 事務局長
※2021年度取材当時

喜多 泰弘

嘉楽学区社会(住民)福祉協議会 会長
西陣千本商店街振興組合 会長
社会福祉法人西陣会 評議員

宮崎 一弥

社会福祉法人西陣会 事務局長

宮崎 たしかに、区民運動会や嘉楽わっしょは盛り上がってますね。

喜多 そういうイベントに参加してくれる若い世代の方々がいることは本当にありがたいです。

宮崎 私たちが地域の皆さんとお知り合いになれたきっかけも、運動会のテント建てとかのお手伝いでした。その頃は、若いボランティアが大勢いたということもありますけど。

宮本 高齢化しているなかで、若い人が活躍できる場は貴重ですね。

宮崎 何年か続けていくうちに、私たちがいるのが当たり前になってきました。

宮本 地域のなかで福祉施設ができるとなれば否定的にとらえられた時代がありましたが、顔を覚えてもらって信頼関係があるということは今も大切なことだと思います。

宮崎 それは、グループホームを運営したときにも実感しました。区民運動会の大縄跳びで毎年1回も跳べないんですけど、みんなが応援してくれるのが本当にうれしい場面だったりしました。

喜多 昼間の人口がお年寄り中心になっているということも、防災面では大きな課題やと思うんです。若い人たちは仕事に行ってますから。

宮本 逆に、西陣会さんのようなところは昼間に人が大勢いますよね。

宮崎 そうですね。町内で何かあったときなんかは、すぐに駆け付けたいと思います。他に、なにかできそうな事例とかってあります？

宮本 たとえば、地蔵盆が維持できないとか地蔵も預かれないという町内会さんで、とある事業所さんが掃除や備品の預かりならできますよ！と、連携が生まれたと聞いたことがあります。

宮崎 なるほど。そう言えば、西陣会でも地蔵盆の備品をお預かりしています。それから、北区でシェアハウスをしているんですけど、そこは町内会長のお役をさせていただいたこともありました。そこで初めて、町内会運営の実情や大変さも知りましたね。

喜多 町内会長のなり手がいないと言う声はよく聞こえてきますから、そりゃ結構なことだと思います。

ほんまの声を聴く

宮崎 社会福祉法人は「地域において、少子高齢化・人口減少などを踏まえた福祉ニーズに対応するサービス」をやりましょうと国から言われているんですよ。

宮本 そこが社会福祉法の改正によって、責務規定とされたところですよね。

宮崎 そうなんです。地域のプロフェッショナルのお二人から見て、西陣会へのアドバイスとかあるでしょうか？

喜多 嘉楽学区には西陣会さん含めて4つ社会福祉施設があるんです。先ほどの災害時の話じゃないですけど、事業所さん同士の日頃からの連携なんかもいかがでしょう。

宮崎 たしかにそうですよね。ありがとうございます。

宮本 いろんなご意見もあると思いますが、必ずしも児童とか障害の分野の専門的な領域ではなくても、それこそお地蔵さんの掃除のこととか、近所の一人暮らしのお年寄りのこととか。

宮崎 はい。

宮本 何かあれば気軽に相談してみようと思える関係性があることが、今後の発展にもつながっていくように思います。

宮崎 それって、簡単そうでなかなか出来ないことですよね。自分たちがじゃなくて、相手ありきというか‥‥。

喜多 いちばん難しいのは、ほんまの本音を聴くことなんやと思います。何もかかわりがなかったら、何も生まれませんし。

宮本 お一人おひとりの声を聴くことの難しさ、私も実感しています。

喜多 それは常に思ってますんでね。私もそんなに動けるわけではないんですけども。

宮崎 そこは、まだまだ、よろしくお願いいたします。お二人のお話を伺って、日頃からのつながりの大切さを改めて感じました。本日はありがとうございました。

取材日：2022年1月12日

京都ならでは!? 用語解説コーナー

学区とは？

小学校や中学校の通学区域ではなく、明治期から戦中まで小学校運営・行政機能の一部を担う地域単位であった学区のことを指す。現在、学区は直接の行政機能を有していないが、自治連合会、体育振興会や社会福祉協議会、自主防災組織など地域行政・住民自治の単位として京都で用いられている。西陣会法人本部(上京区)は、嘉楽(からく)学区内に位置する。

消防団とは？

消防署員とは別に、一般市民によって構成されている地域における防火、防災を目的とした組織。京都ではおおむね学区ごとに消防団が設けられており、消防団員は特別職の地方公務員となる。平常時は夜間の巡回パトロールを行ったり、火災時には警戒区域の設定や避難誘導、消防署員による消火活動の支援等を行ったりする。現在、西陣会職員有志3名が消防団員となっている。

学区社協とは？

学区単位で地域住民により組織されている任意団体、社協は社会福祉協議会の略。各学区社協では、地域の実情に応じて、自治連合会(町内会)や民生児童委員会等の関係団体と連携しながら、様々な「住民主体の地域福祉活動」を推進している。上京区内だけでも17学区社協があり、高齢者や子ども等の地域住民を対象とした事業や活動が行われている。

区民運動会とは？

学区毎に秋に開催される運動会。子どもから大人までが参加し、町内対抗でさまざまな競技が行われる。近年、高齢化によって参加できない町内会もある。西陣会は、ひとつの町内会と同じ扱いで嘉楽区民運動会に参加させていただいている。

嘉楽わっしょとは？

嘉楽学区社協が主催する学区のお祭り。さまざまな地域団体による屋台や舞台発表があり、毎年大勢の学区民で賑わう。西陣会では、嘉楽わっしょと同日に嘉楽中学の中学生たちと障害のある人たちの交流事業を長年行っている。

地蔵盆とは？

自治会・町内会や町内の子ども会などが運営主体となって、町内のお地蔵さんにお供物をして祀り、子どもたちが主役となる行事。京都の夏の風物詩でもあり、多くの町内会で実施されているが、高齢化や子どもがいなくなり、開催していない町内もある。西陣会でも近年、地蔵盆に参加やお手伝いさせていただく機会が増えてきている。

子育て応援ネットワーク

西陣児童館はここ10年、館内での乳幼児クラブ活動や遊びの広場活動等だけでなく、子育てサークル「あっぷっぷ」（2021年3月終了）のサポートや、最寄りの関係機関と連携・協同しながらの講座や居場所づくり、地域の方々と保護者との「ほっこりにこにこトーキング」、上京区内の様々なイベントへの参画を行ってきました。

また福祉課題を抱えるご家庭に対して、情報共有をしながら課題を解決していけるよう努めてきました。2015年からは、「地域子育て支援ステーション」の基幹ステーションとして指定を受け、子育て支援の中核機関として、「地域の子育てネットワークづくり」と「ネットワークを活用した子育て支援の地域展開」の役目を担っています。

今回、このネットワークの中でも特に一緒に考え、歩みを進めてきた方々とさらにつながりあって、各機関の持ち味を発揮しながら上京区の子育て支援をすすめていくことを目指して、座談会を行いました。コロナ禍の中で工夫をしながら活動を行ってきたこと、出会ったご家庭への支援について、互いへのエールや、児童館への期待・・・話は尽きませんでした。

コロナ禍の子育て

※2022年3月にお話を伺いました。

— みなさん、お久しぶりです～。今日はお集まりいただけて、本当にうれしいです。

— 飯田さんは、月3回は西陣の子育て支援の応援に来てくださって、親子を見守ってくださっています。一緒に歌って踊って♪

飯田 一緒に楽しませてもらってます。

— 小島さんは、一緒に実行委員会をしたイベントはコロナの影響で中止になってしまいましたが、先日の小学校でのケース会議以来ですね。

小島 その節は、大変お世話になりました。

— 宝光井先生は、拠点保育士として上京区の様々な子育て支援の場に出向かれ、出会った親子さんをうちにもつないでくださったり。職員たちにも情報提供していただいたり、相談にのっていただいたり。

宝光井 いろんな支援の場に出向いてお話しさせてもらうことで、親子や支援者とつながることができました。ネットワークづくりってそういうことの積み重ねなのかなと感じました。

— そして、実は鈴木さんはうちの児童館をご利用くださっていたお母さんだったんですよね。

こうして支え手としてつながれるなんて！

鈴木 子ども二人ともどもお世話になって。

おひさまルームは丸9年になりました。

— あらためて、こうやってみんなで顔を合わすのって初めてかもしれないですね。

宝光井 コロナの影響で、イベントなんかも中止になりましたよね。

— 記念新聞ではここ10年の子育て環境の話もできたらと思っていたんですが、やっぱりコロナ禍の子育て支援のことは皆さんからお聞きしておきたいです。

鈴木 つどいの広場おひさまルームでは、人数を制限して予約制で来てもらってるんですけど、それでも心配に思ったお母さんもいたんですよ。

宝光井 それって、感染不安から？

鈴木 そのお母さんにとっては「密」やと思ったんでしょうね。だから、もうひとつのお部屋をどうぞってご案内して。

宝光井 買い物にも行かない、一歩も外に出ないって方もおられますもんね。

鈴木 だから、うちはZOOMでもやってて。

宝光井 おひさまルームは、ネット予約ができたりするのですごいなと思います。

鈴木 予約フォームで予約状況とかもわかるんですけど、満席になったらキャンセルされる方もいて、本当に不安な方もおられるんですよね。

小島 保健師の立場からだと、そもそもどこにも行けないと思っているお母さんも多い印象があります。やっぱりコロナの流行を気にされてずっと母子で家にいるケースもありますね。

宝光井 保育所では電話相談もやっているんですけど、「エアコンは何度がいいですか？」などの質問がすごく多いです。

小島 その質問、訪問に行ったときもよく聞きます。身近に話ができる人がいたら、「汗かいてそうやし温度下げようとか1枚脱がそう」みたいに解消できることが多いんですが、身近に情報交換できる人がいないのは辛いですよね。

他の子どもの様子を見たり、先輩ママから教えてもらったり情報交換できてたんですけどね。

小島 コロナが流行してから、大勢の子どもたちで集まる機会が少ないのか、1歳半健診ではみんながいる場所に来たら号泣しちゃう子も多いような気がします。

飯田 人と会う経験が圧倒的に少なくなっているからなんでしょうね。

小島 やっぱり児童館さんとか子育てサロンさんでのかかわりって、対人面での発達や心理面にもいい影響があったのかなと思います。

鈴木 健診でひっかかって紹介されて来た方も、人と会っていない環境で育ってきたからなのか、脳の特性からなのか、わからない部分もあると思うんですよね。

小島 そうですよねぇ。あと、おうちで子どもさんとの遊び方がわからないというか、教えてほしいというお母さんも多いですね。きっと今までなら児童館に行ったりして教えてもらったりする機会は多かったのかな。

鈴木 そういう動画サイトもあるんですけど、やっぱり一方通行じゃなくって、いろんなやりとりがあってこそじゃないですか。だから、ZOOMやってて良かったと思います。

小島 ニーズはやっぱり高いですか？

鈴木 1回30分に設定してるんですけど、あらかじめ遊びたいのか、おしゃべりしたいのか、相談したいのか、お伺いするようにしてます。

飯田 民生児童委員もZOOMとか使えたらいいんですけど、コロナになってからお母さんや赤ちゃんにも出会いにくくなってきました。

小島 こんにちは赤ちゃん事業で、訪問したときにお祝い訪問のこともご案内しています。里帰りで自分の親にも会えへんなかで来てもらえるのはありがたいってお声もあります。

飯田 本当は、こんにちは赤ちゃん事業のときにご一緒できたらいいなと思ってるんですけど。

小島 そうですね。赤ちゃんがいる中での訪問なので、フェイスシールド着用で朝一番に訪問に来てほしい等と希望される方もおられたりしますね。早くコロナが落ち着いてほしいです。

飯田 本当にそう思います。今は民生児童委員としてお宅に訪問することは難しいですけど、児童館さんでパンダクラブをさせてもらっているので、そこで地域のお母さんたちとも積極的に出会えたらと思います。

— 児童館に主任児童委員さんが来てくださっているのは、本当に心強いです。コロナの話題もそろそろ終わりにしようと思っているんですけど、他にはありますか？

鈴木 コロナの影響は、お父さんの仕事にも影響してますよね。

宝光井 それって在宅ワーク？

鈴木 そうそう。パパが家で仕事してるから5時半まで家に帰れないとか。リモートで家にいるけど、家事育児は結局ワンオペで、さらに気も違うっていうパターン。

宝光井 かえってママが大変になってしまいそうですね。

鈴木 家にいても気が休まらないし、働くことにしましたっていうケースもありますね。

宝光井 仕事できる男性でも、女性の気持ちが分かるかどうかは別問題なのかもしれませんね。

一同 そうそう（笑）

— 本当に、児童館の中から見えてなかった部分も皆さんから教えていただいて、あらためて皆さんがいろんな場面で地域の子育てを支えておられるんだなぁと思いました。

（次ページへつづく）

子育て支援用語解説

児童館

児童福祉法第40条に定められた「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする」児童福祉施設で、地域のさまざまな年齢の子どもたちとその保護者が自由に来館して遊ぶことができる場です。

つどいの広場（京都市子育て支援活動いきいきセンター）

3歳未満の子育て真っ最中の保護者がほっこりできて楽しめる場所です。子育てアドバイザーが育児相談に応じるほか、地域の子育て支援に関する情報の提供や子育て講座、相互交流等のイベントも開催しています。毎日（休所日を除く）10:00-16:00まで開いています。

一歳半健診（乳幼児健康診査）

この時期は、一人で歩けるようになる、ことばを話し始めるなど、運動面・精神面ともに発達の大きな節目の時期にあたります。京都市の区役所、支所では管内に住民票のある乳幼児を対象に、4ヶ月、8ヶ月、1歳6ヶ月、3歳後半で健診を実施しています。医師・歯科医師・心理士・保健師・栄養士など多職種が従事し、お子様の心身の発育・発達を確認するとともに、育児に関する様々な相談にお答えし、子育てのサポートをします。必要な場合には専門機関に紹介もしています。

保健師は、乳幼児健診や電話相談への対応、家庭訪問を実施し、健康問題を中心とした支援を行っています。育児以外にも、生活習慣病、感染症、こころの健康など多岐にわたり支援しています。

民生児童委員

学区ごとに厚生労働省から委嘱され、福祉に関する相談・援助活動に携わるとともに、地域の関係機関・団体やボランティアの方たちと協力して地域福祉のネットワークづくりに努めています。主任児童委員は児童や子育てに関わる支援を専門的に担当しており、担当区域をもたず、区域担当の民生委員児童委員と連携しながら活動しています。

こんにちは赤ちゃん事業

京都市では、生後4ヶ月までの乳児のいるすべてのご家庭に、保健師・助産師・保育士等が訪問し、体重を測定し、育児に関する質問や相談などに応じています。その際には、「上京赤ちゃんお祝い訪問」のお知らせをお渡ししています。ご希望のあったご家庭に主任児童委員がお伺いし、地域の子育て情報などをお伝えしています。

子育てサロン

各学区の民生児童委員協議会等が中心となって、子育て中の家庭を支える活動です。子育てサロン「パンダクラブ」は嘉楽学区の民生委員児童委員があたたかな雰囲気の中、出迎えています。

飯田 美佳
嘉楽学区主任児童委員

小島 万波
元上京区子どもはぐくみセンター
学区担当保健師
（2022年4月に異動）

宝光井 佳代子
元鶴山保育所 拠点保育士
（2022年4月に異動）

鈴木 まゆみ
つどいの広場おひさまルーム
子育てアドバイザー

四・五・六歳の壁？

— 子育て支援って、児童館だけでは出来ないと思っていて、こうやって皆さんと顔の見える関係でいるからこそ安心して紹介できてるんだと思ってます。「どこそこに、誰それさんがいるから、ぜひ行ってみて」って。

宝光井 そうですよね。

— そういうつながりの中で、こんなのがあったらいいなとか、あったら教えていただきたいなと思ってるんですけど。

鈴木 私たちのつどいの広場事業って、三歳までなんですよね。四歳のお誕生日が来たらもう来れないんですよ。

— ええ。

小島 四歳では乳幼児健診もないですもんね。

飯田 みなさん四歳だと、幼稚園か保育園に通っている年齢ですもんね。

鈴木 でも、四歳になったら大丈夫っていうわけではなくって、うちを利用したいって問い合わせが結構あったりするんですよね。

— それって？

鈴木 コロナの影響もあるんですけど、園にお迎えに行ったときにおしゃべりしたり、先生に話きいてもらったりする時間ってあまりなくって。

宝光井 預けるところがあっても、保護者同士の交流の場は減っていますもんね。

鈴木 切れ目のない支援をってなってるけど、そこ切れてるんちゃうかなって。

宝光井 たしかに

小島 発達面の悩みとかだと、はぐくみ室にもお電話いただいたりします。児童館さんには四・五・六歳の利用ってあります？

— 土曜日のイベント系ではたまにありますけど、就園前の親子対象のプログラムが多いので、来年度に向けて話をしているところなんです。

飯田 パンダクラブは、就園前のお子さんとそのおにいちゃんやおねえちゃんも来てくださっています。

宝光井 みんなで話すと、こうやって見えてくるものってありますよね。

児童館への期待

— 四・五・六歳さん親子の場づくりもですけど、皆さんから児童館に期待していること等、さいごに一言いただけたら。

飯田 私は嘉楽学区の主任児童委員なんですけど、西陣児童館さんは他の学区のお子さんも広く来られてますよね。

— 学童クラブも、主に3つの小学校から通われてます。

飯田 それって、学区を超えたつながりがあって、すごいことだなぁと思います。

小島 子ども0歳から18歳までが対象の児童福祉施設ってのも児童館だからこその魅力ですよね。

— もっと親子連れでも来て～と言いたいところですけど、場所的な課題もあったりするのですが･･･。それでも、学童クラブ以外の小学生さんが友達連れで来たり、たまに中高生がボランティアとして遊びに来てくれることもあるんですよ。

宝光井 公立の保育士には異動があるので、飯田さんと同じように、ずっと同じ地域で活動されているってすごいことだと思います。

小島 そうですね。同じ顔ぶれでいると、それに安心されている親子さんもおられそうですよね。

— この前、学童に来ていた子が、お母さんになって娘を学童に入れたいって来てくれたんです。

宝光井 すごーい。感動ですよね。

— はい！長いスパンで成長を見守ったり、つながっていられるのは、児童館冥利につきます！

鈴木 私も、子どもを連れて行かせてもらってたし、ずっといてくれる安心感ってありますね。異動があったりしたら、その度に関係をつくっていかないといけないけれど。

— お互い知っているのは心強いですよね。

小島 ふと思ったんですけど、おひさまルームのようにネット予約などができたらいいですよね。

鈴木 予約もキャンセルもネットですね。

宝光井 すごーい！

鈴木 うちのスタッフがすごいんですけどね。

LINEを活用してるとこもありますよ。

小島 LINEで子育て相談とかもできたら、すごく気軽に相談できそうですね。

— 来られているお母さんたちに、どんなのがいいか聞くところから始めてみようかな。私はできひんけど(笑)

宝光井 館長先生のお人柄が大きいなって思うんですけど、すごく地元から愛されている児童館やなって思ってるんで、地域の子どもやご家庭と、ずっとつながっていてほしいなと思いますね。

— 私はできないことばっかりですけど、こんなにステキな皆さんや職員たちに囲まれているので、児童館があってよかった！って思ってもらえるようにこれからも頑張っていきますね。今日は本当にありがとうございました。

聞き手：中山あい
取材日：2022年3月11日

ハッピーバースデー にしじんじどうかん

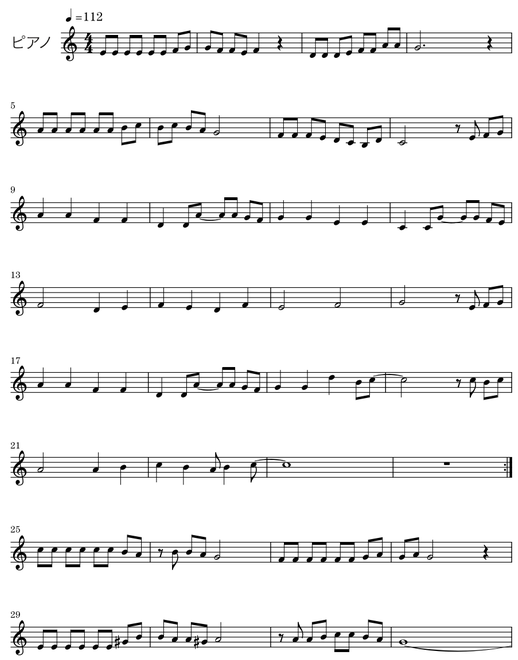
1981年12月5日、子どもたちが互いに影響しあい、成長しあう場であってほしいと、西陣児童館が誕生しました。

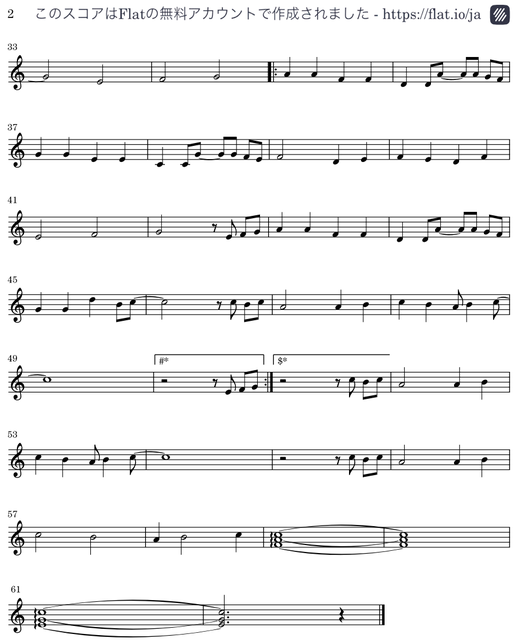
「子どもたちの『遊びの場』『未知との出会いの場』『創造の場』であってほしい。人として、ともに生きられる場、ともに思いあえる場になってほしい」との先人たちの思いが当時の機関紙「絆」の紙面にも残されています。たくさんの出会いの中で、たくさんの方々の祈りの中で、今もなお、西陣児童館がここにあり続けています。

今まで支えてくださり、見守り続けてくださったみなさんに、言い尽くせない感謝の気持ちを込めて、そして、これからの西陣児童館が、新しく出会っていく方々とも一緒に歩んでいけるように、エールを込めて、西陣児童館40歳をお祝いして、お誕生日ソングができました。

「ハッピーバースデー にしじんじどうかん」

作詞・作曲 中山あい 編曲 藤賀一暢





「ハッピーバースデー にしじんじどうかん」

作詞・作曲 中山あい 編曲 藤賀一暢

1. りょうてをぐーんとのばして おそらへジャンプしよう
にじのアーチをすべりおり くもにダイビング
ラララ ハッピーハッピーバースデイ ラララ ハッピーハッピーバースデイ
おめでとう にしじんじどうかん
ラララ ハッピーハッピーバースデイ ラララ ハッピーバースデイ
だれもが スペシャルオンリーワン

2. りょうてをうーんひろげて みんなで手をつなごう
大きなゆうやけにつつまれて 心もポッカポカ
ラララ ハッピーハッピーバースデイ ラララ ハッピーハッピーバースデイ
おめでとう みんなのじどうかん
ラララ ハッピーハッピーバースデイ ラララ ハッピーバースデイ
ひろがれ みんなのえがお

※ちょっぴりさみしいときにも ちっぽけにかんじるときも
ひとりぼっちじゃないんだよ いつもここにいる

ラララ ハッピースマイル！ じどうかん
ラララ ハッピーウィンク！ じどうかん ひろがれ であいとえがおのわ
ラララ ハッピーラブ！ じどうかん ラララ ハッピーじどうかん
ありがとう であったみんな

ラララ ホップ ステップ チャレンジ！ じどうかん
ラララ ホップ ステップ ドリーム！ じどうかん
みんなで つくろうゆめのばしょ
ラララ ホップ ステップ ジャンプ！じどうかん
ラララ ジャンプ ジャンプじどうかん
はばたけ にしじんじどうかん
かがやけ みんなとじどうかん
だいすき にしじんじどうかん

YOUTUBE

また会える日まで

「うぃず」の事業名称は、「京都市障害のある中高生のタイムケア事業」です。名前のとおり、京都市の事業として、2007年に産声をあげました。

当時、障害のある児童の主たる居場所は「学童クラブ事業」に限定されていました。学童クラブを卒所して中高生になっても、子どもたちが友だちと自分らしく過ごせる居場所を、保護者の方々が仕事を続けられるように、そんな願いが実を結んで「タイムケア事業」が京都市独自の施策として創設されました。

はじまりがあるものには、おわりがあります。

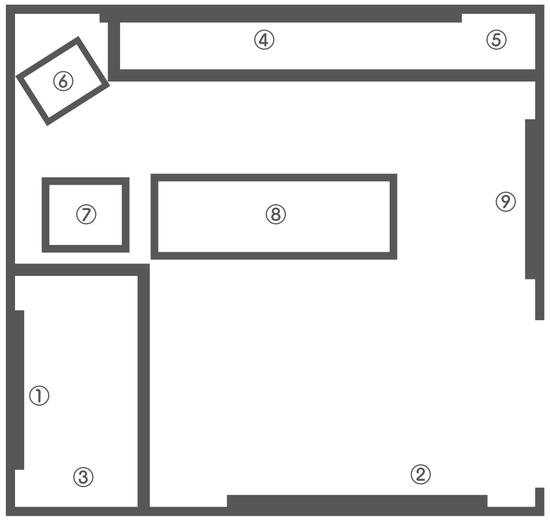
開所当初4か所しかなかったタイムケア事業ですが、現在は180か所以上もの放課後等デイサービスが京都市内にできるまでとなりました。そのような状況を受けて、京都市における「タイムケア事業」は一定の役割を果たしたということで、2022年3月末に終了いたしました。一人でも多くの子どもたちにとってより良い居場所を、子どもの障害を理由に仕事をやめなくてもよい社会を、という当時からの願いが少しずつ叶っていると信じています。

閉所する前の2021年9月、これまで出会ってくださったみなさまに「ありがとう」の感謝の気持ちをお伝えしたくて『うぃずが閉所するから会いに来てネ展』を開催いたしました。当時の写真だけではなくお寄せいただいた現在の写真やコメント、長年使ってきた愛着のある備品類、これまで発信してきた発行物等の資料展示もおこないました。

あいにくの緊急事態宣言下での開催となってしまいましたが、本会場にもWEB会場にも多くの方にお越しいただき再会できたことが何よりもうれしい出来事でした。

本ページは、その思い出をすこしでもわかちあえたらという試みでもあります。また会える日まで、この紙面を残したいと思っています。

『うぃずが閉所するから会いに来てネ展』をふりかえる。

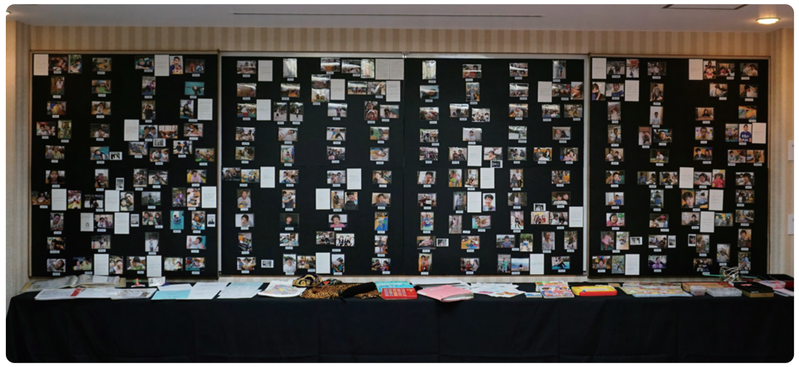


『うぃずが閉所するから会いに来てネ展』（2021.9.4-9.5,ルビノ京都堀川「嵐山」）

①ウェルカム看板
2021年度うぃずを利用している子どもとスタッフ、ボランティア全員で制作

②Rememberうぃず
過去のセンター便り絆から18の記事を抜粋展示

③みどりマット
遊びも昼寝もどんとこい！ みんなを包みこむ大きな存在



④WALL of うぃず（壁面）
うぃずに出会ってくださった約180人全員の当時の写真やメッセージ等を展示
⑤あれやこれや、うぃずいろいろ（壁面下）
うぃずの時間のなかで生まれたものや使用していたもの、懐かしい品々を展示

⑨てをつなぐ写真の壁
15年分のスナップ写真で埋め尽くされた壁

⑥分室テレビラック
うぃず15年分の超大作映像（全45分）を放映
⑦一人掛けソファー
15年前の開所時から京都市よりお借りしているソファー

⑧三人掛けソファー
スタッフやボランティアが西陣会のイベント等で資金を稼いで購入したソファー。
ここで繰り広げられたドラマは数知れず。

15年間、ありがとうございました。また会える日までお元気で！

社会福祉法人西陣会の歩み

2012-2022

2012

・西陣会設立50周年を迎え、記念式典を開催

・京都市民福祉センター賛助会解散

2013

・法人本部西隣物件を購入

・共同生活介護事業（ケアホーム）『西陣会ホームとなり』、短期入所事業『ショートステイゆう』を開所

・相談支援事業所きずな開所

・ほほえみネット(障害のある児童の放課後や通学支援)開始

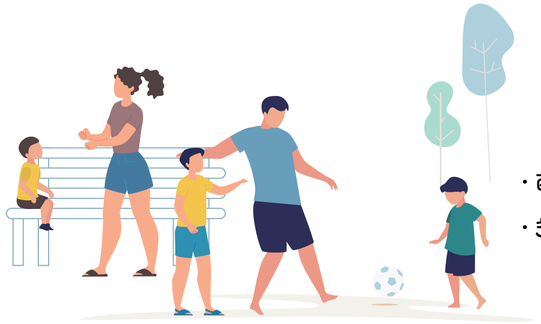
2015

・西亀屋町の物件を購入し、デイセンターふらっと分室を開所

・シェアハウス小松原の家スタート

2017

・ピーポテイクオフ（40年の活動終了）



2018

・西陣会ホームきたまちとネイバーフッドきたまち事業開始

・きょうと福祉人材育成認証制度の認証法人に

2019

・京都市放課後等デイサービス支援事業受託

2020

・京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」分室(待鳳小学校内)閉所

・子育てサークル「あっぷっぷ」終了

2021

・京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」卒所式&閉所式（事業終了）

2022

・西陣会設立60周年を迎え、記念イベント(オンライン)を開催

2012年度トピックス

・西陣会設立50周年を迎え、記念式典を開催
・法人として初めて町内会長(小松原北町南部町内会)を引き受けることに
・『高齢化している町内会と福祉団体の協働実践による地域福祉の発展および活性化プロジェクト』実施(京都華頂大学・華頂短期大学 地域発展活性化センター「地域連携・交流事業」2014年度助成)
・京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」分室(待鳳小学校内)開所
(4月)第25回桜まつり(実行委員長:椹木翔子)
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会
(9月)賛助会秋のレクリエーション
(10月)嘉楽区民体育祭
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ
(1月)合同新年会
(2月)ピーポ35周年同窓会、京都市民福祉センター賛助会解散
(3月)定年退職:水谷洋一(常務理事・統括責任者・京都市民福祉センター館長・西陣児童館館長)

2013年度トピックス

・常務理事・統括責任者・京都市民福祉センター館長に浅田将之が就任
・西陣児童館館長に中山あいが就任
・法人本部西隣物件を購入・リフォームし、共同生活介護事業(ケアホーム)『西陣会ホームとなり』(所長:宮崎一弥)と短期入所事業『ショートステイゆう』(所長:浅田将之)を開所
・相談支援事業所きずな開所(所長:浅田将之)
・ほほえみネット(障害のある児童の放課後や通学支援)開始
(4月)第26回桜まつり(実行委員長:藤賀一愉)
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会
(9月)役員改選
退任:井上雅治理事、長井晴喜理事、中島淳理事
就任:水谷洋一理事、南大路文子理事、平田義理事、叶信治評議員、藤元加名評議員
(10月)嘉楽区民体育祭、新旧役員・評議員及び法人関係者と職員の食事会
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ
(12月)お餅つき@西陣会ホームとなり
(1月)合同新年会
(2月)タイムケア事業「うぃず」同窓会
(3月)京都市とデイセンターふらっとで福祉避難所の協定締結

2014年度トピックス

・地域活動支援センターふらっとが25周年を迎え、記念旅行・記念会の実施
・ショートステイゆうと相談支援事業所きずなの管理者に寺田文が就任
・西陣児童館子育て支援プログラムがリニューアル
・『障がいのある市民が地域で役割を担い参画するインクルージョン推進事業』実施(京都華頂大学・華頂短期大学 地域発展活性化センター「地域連携・交流事業」2014年度助成)
(4月)第27回桜まつり(実行委員長:益山三枝)
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会
(10月)嘉楽区民体育祭、白い小箱運動の作業を請け負う(デイセンターふらっと)
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ
(12月)お餅つき@西陣会ホームとなり
(1月)合同新年会

2015年度トピックス

・学童クラブ受け入れ対象が小学校6年生まで に拡大
・上京消防団嘉楽分団に職員が入団
・法人本部北側にある西亀屋町の物件を購入し、デイセンターふらっと分室を開所
・北区衣笠学区にてシェアハウス『小松原の家』事業開始(責任者:浅田将之)
(4月)第28回桜まつり(実行委員長:松井佑介)
(5月)京都市障害のある中高生のタイムケア事業連絡会発足
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会
(9月)役員改選
退任:大和明子監事、宮井久美子評議員
就任:村井喜治監事、宮川知子評議員、叶信治理事、福井治子理事
(10月)嘉楽区民体育祭
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ
(12月)お餅つき@西陣会ホームとなり
(1月)合同新年会

2016年度トピックス

(4月)第29回桜まつり(実行委員長:松井佑介)
(5月)役員交代 退任:中西英輔評議員、就任:喜多泰弘評議員
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会・西亀屋町
(10月)嘉楽区民体育祭
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ
(1月)合同新年会

2017年度トピックス

・西陣会設立55周年を迎え、記念式典を開催
・社会福祉法人制度改正による新役員体制へ(理事・監事の任期2年、評議員の任期4年)移行
(理事長)水上雄一郎、(常務理事)浅田将之、(理事)武田康晴、(理事)平田義、(理事)福井治子、(理事)水谷洋一、(理事)南大路文子、(理事)山本恵、(監事)雷恒敏、(監事)村井喜治、(評議員)赤井英俊、(評議員)叶信治、(評議員)佐々木義全、(評議員)喜多泰弘、(評議員)平松紀代子、(評議員)マーサ・メンセンディーク、(評議員)南川邦夫、(評議員)宮川知子、(評議員)渡辺和昭
退任:服部忠評議員、藤元加名評議員
(4月)第30回桜まつり(実行委員長:荻野皓大)
(6月)新旧役員・評議員及び法人関係者と職員の食事会、シェアハウス小松原の家入居者沖縄旅行
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会・西亀屋町
(9月)京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」10周年記念会、MYM企画「淡路島と鳴門の渦潮 温泉まったり旅行」
(10月)嘉楽区民体育祭
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ、嘉楽学区総合防災訓練参加
(1月)合同新年会
(3月)ピーポテイクオフ(40年の活動終了)

2018年度トピックス

上京区翔鸞学区にて共同生活援助事業(グループホーム)『西陣会ホームきたまち』(所長:宮崎一弥)とサービス付き障害者住宅『ネイバーフッドきたまち』(責任者:浅田将之)事業開始
・タイムケア事業「うぃず」所長に中山あいが就任
・西陣児童館耐震補強工事
(4月)第31回桜まつり(実行委員長:松井佑介)
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会・西亀屋町
(10月)嘉楽区民体育祭
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ、嘉楽学区総合防災訓練参加、きょうと福祉人材育成認証制度の認証法人に
(1月)合同新年会

2019年度トピックス

・京都市放課後等デイサービス支援事業受託(管理者:中山あい)
・デイセンターふらっと耐震補強工事
・地域活動支援センターふらっとが30周年を迎え、記念旅行・記念会の実施
(4月)第32回桜まつり(実行委員長:中山あい)
(6月)理事改選、新旧役員・評議員及び法人関係者と職員の食事会
退任:水上雄一郎理事長、水谷洋一理事
就任:南大路文子理事長、土屋健弘理事、中山あい理事
(8月)地蔵盆@元四丁目・小松原北町南部町内会・西亀屋町
(10月)嘉楽区民体育祭(途中雨天の為中止)、時代祭の延暦文官参朝列(嘉楽学区)に参加
(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ、嘉楽学区総合防災訓練参加
(1月)合同新年会

2020年度トピックス

・新型コロナウイルス感染・拡大防止対策として、例年実施している(4月)桜まつり、(5月)理事会、(6月)定時評議員会、(10月) 嘉楽区民体育祭、(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ、(1月)合同新年会が中止
(7月)退職:浅田将之(常務理事・統括責任者・京都市民福祉センター館長・居宅サービス係所長・デイセンターふらっと所長)
(8月)統括責任者に土屋健弘、理事に宇川征宏、京都市民福祉センター館長に中山あい、居宅サービス係所長に赤尾幸雄、デイセンターふらっと所長に本林直人、事務局次長に小西秀和が就任
(3月)京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」分室(待鳳小学校内)閉所
子育てサークルサークル「あっぷっぷ」終了

2021年度トピックス

・西陣児童館が設立40周年を迎える
・新型コロナウイルス感染・拡大防止対策として、(4月)桜まつり、(10月)嘉楽区民体育祭、(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょ、(1月)合同新年会が中止
(6月)理事改選:退任・就任なし
評議員改選:退任:南川邦夫評議員、就任:久門誠評議員
(9月)うぃずが閉所するから会いに来てネ展
(3月)京都市障害のある中高生のタイムケア事業「うぃず」卒所式＆閉所式(事業終了)

2022年度トピックス(11月まで)

・新型コロナウイルス感染・拡大防止対策として、(4月)桜まつり、(10月)嘉楽区民体育祭、(11月)胸ドキキックベース＆嘉楽わっしょが中止
(11月)西陣会設立60周年を迎え、記念イベントを開催

2022年、西陣会の現在地

いま、どんなことをやってるの？
60年前、本部奥の建物ひとつからスタートしました

本部拠点

法人本部

西陣会では、キリスト教の精神を基盤とした理念のもと、事業の運営を行っています。

その中で法人本部は、理事会・評議員会の開催、本部事務業務、労務及び人事関係業務、各種会議・研修会の開催など、法人の運営に欠かせない業務を統括しています。

60周年を迎える今、この記念新聞作成を通じて、法人設立当初の取り組みを確認したり、これからの西陣会がどこに向かっていくのかを検討したりという作業を開始しました。

また老朽化した本部・児童館部分の建物と、市民福祉センター部分の建物の建て替えを検討しなければならない状況が生じており、建設資金の大きな悩みを抱えつつも、これからも西陣会が西陣会らしく活動していくために有用な機能を備えた新しい建物の建設の準備を開始したところです。（土屋 健弘）

京都市民福祉センター

ノーマライゼーションの理念に基づき、すべての人々が健やかに暮らしていける社会づくりを目指しています。福祉サービスを必要とする人々や関わるボランティア、支援者等がともに成長できるコミュニティづくりを目指し、公益活動をおこなっていきます。

●地域における取組：コロナ禍の中、多くの事業が中止されていましたが、消防団員としての働きは行ってきました。総合査閲では、嘉楽分団の一員として3名の職員が参加し、結果、17分団中、2位の成績を収めることが出来ました。（中山あい）

●月曜集会：前半は聖書の言葉を読み合い、感想を述べ合います。その後は音楽鑑賞をしたり、おススメの映画や本、食べ物の話を自由に語り合います。本来は、よく食べ、よく笑ううどいです！参加者や法人の近況を共有し合い、祈り合うひとときです。（中山あい）

●青少年ボランティア育成事業MY MOTHERS：「ワガママにいろいろな活動をしていこう！」略してMYMです！このコロナ禍では、地域の運動会、お祭り、法人の新年会などほとんどの活動が中止を余儀なくされました。しかし、これからは法人の事業や部署を超え、地域との関わりも新たに、たくさんの人をひっくるめてステキな企画を徐々に考えていきたいと思っています。（鬼塚義正）

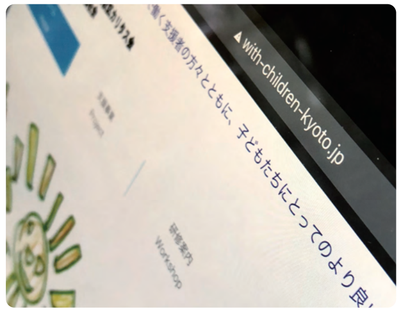
地域活動支援センター ふらっと

1989年1月に「障害者自立援助事業ふらっと」として発足し、2003年4月からは日本初(？)の夜のデイサービス、2006年10月からは地域活動支援センター余暇型として事業運営しています。30年以上の歴史の中で、事業の形態はその時代ごとに変わっても、活動の目的とメンバーの笑顔と皆の余暇活動に対する熱意は今でも変わりません。

しかし、近年の新型コロナウィルス蔓延の影響を受け、活動の特性上グループでの外出・外食の活動や、夕食の調理活動の縮小を余儀なくされ、「夜ふら」らしいことが出来難くなっています。

夜ふらの代名詞である、ボウリング、カラオケ、居酒屋、お祭りに参加など、どれも真っ先に制限が掛かってきたものばかりです。とはいえ、このような困難な状況下でも、その中で出来る“楽しみ”を仲間たちとともに一緒に考え、知恵を振り絞り活動を実施しているところが、“楽しみ”を30年以上にわたり追求してきた「夜ふら」ならではの良さでしょう。（宮崎一弥）

京都市放課後等 デイサービス支援事業



2022年現在、京都市内の放課後等デイサービス事業所は約180か所あります。当事業は、そんな数ある事業所で働く支援者の方々とともに、子どもたちにとってのより良い支援を考えていく京都市の事業です。

当事業は3つの社会福祉法人が受託し、京都市(子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課発達支援担当)の担当者を含めた4者でチームを組んで事業を実施しています。現在、放デイの基礎を学ぶ体系的な研修を策定し運営したり、各事業所のお困りごとやご相談等に対応する訪問を行ったり、放課後等デイサービスに関連する情報収集や発信等に取り組んでいます。

すべての取り組みが初めての課題解決型のプロジェクトですが、チームで力をあわせて乗り越えていくベースには、これまでタイムケア事業「うぃず」で培われた経験が活かされています。“with-children-kyoto”で、ネット検索してみてください。当事業のホームページを閲覧いただけます。（小西 秀和）

西陣児童館

このコロナ禍の中、児童館事業ができない期間がありました。職員は会えない方たちに思いを寄せながら、お電話したり、工作キットやお手紙を届けたり、ズームを使っての幼児クラブや手遊びや遊びの動画配信もできるようになりました。

学童クラブでは、密にならない遊び方や過ごし方の工夫をしながら過ごしています。様々に制限がある中も、子どもたちは飄々と新たな遊びを生み出しています。学校からの帰り道のお土産がダンゴムシや道端のお花であったりするのは、コロナ禍だろうが何だろうが、いつの時代も変わらないようです。

喧嘩したり、悔しくて、悲しくて、泣いてしまっても、「明日、また来てあげるわな！」と笑顔で帰っていく子どもたちのうしろ姿には、安堵感と元気をもらいます。地域の方々にあたたかく見守っていただく中で、子どもたちの笑顔と大きな声は、地域を元気にします。41年目も「豊かな出会いが広がるみんなの居場所、空に一番近い児童館」で、子どもたちと一緒に新しいとりくみを考えながら、歩んでいます。（中山 あい）

レスパイトサービス

2000年に始まった西陣会レスパイトサービスは、今も変わらず障がいのある方やその家族が、自分の住み慣れた家や地域の中で安心して暮らしていける一助として事業を続けています。

始まった当初と比べると、制度が少しずつ拡充し、日常的なものから緊急時においても、ヘルパーやショートステイなどの社会資源を当たり前に使えるようになってきています。その反対に、レスパイトサービスの利用は年々少なくなっているのが現状です。また、登録者も減っており、グループホームへの入居など生活環境の変化や他の支援メニューの充実などにより、レスパイトでなくても地域生活を大きな不安なく過ごせているという声も聞きます。当初は法人に関わっていたボランティアも多く、レスパイトスタッフとして事業を支えてもらっていましたが、コロナをはじめ様々な理由から職員以外のスタッフがいない状況という大きな課題にも直面しています。

このような現状を受け、レスパイトサービスの今後の在り方について、時代やニーズに合った更なる形があるのではないか考え始めているところです。（鬼塚 義正）

東館拠点

デイセンターふらっと

2003年4月に知的障害者デイサービスから始まり、現在は生活介護として行っております。利用者の定員は23名ですが、一日23～25名の方が利用をされており、グループを三つに分けて、それぞれでの活動を行っています。月一度の全体で行う活動や、一年に一度の海水浴や旅行などにも行っております。（2022年6月現在はコロナ影響で中止しています）

日々の活動の中には、ちょうど10年前の2012年に始まった小松原北町南部町内会の市民しんぶんの配達があり、多くの町内の人お会いすることでき、感謝の言葉も多くいただいています。

小物の袋詰めやミシンを使っての雑巾づくりや、封緘などの軽作業もしており、その他にはトイレットペーパーと京都市指定ごみ袋の販売・配達もしているので皆さんぜひご注文下さい。

作業以外では、運動不足解消にウォーキングやプールなどにも行っています。個別支援を大事にしながらもグループの良さも生かして楽しく活動しています。（本林 直人）

小松原拠点

シェアハウス小松原の家

新しい地域での生活の形の一つとして、2015年10月から「シェアハウス小松原の家」が始まりました。一つ屋根の下での共同生活。メンバーの入れ替えなどもありながら、現在は2名のご利用者さんが生活を共にされています。

開始からおよそ7年が過ぎ、ご利用者さんの生活スタイルも少しずつ変化してきています。いっしょに過ごす時間もあれば、それぞれ一人で過ごす時間もあります。いっしょに暮らしているからこそできる「お互いの誕生日を祝う」時間だったり、それぞれできる家事をヘルパーといっしょにやったり。時にはすれ違うこともありますが、お互いに助け合いながら生活されています。

まだまだ長いこれからの人生をどう過ごしていただくのか。ご利用者さんが年齢を重ねられることでの変化、建物の老朽化などなど、様々な問題がでてくることが予想されます。一つずつ、ご利用者さんといっしょに考えながらより良い生活、楽しい生活を続けていただけるよう、これからも考えていきたいと思っています（森 勇輝）

相談支援事業所きずな

デイセンターふらっとご利用者を中心に、障がいのある人たちの生活全体や課題や目標を踏まえて、最も適切な福祉サービス等の組み合わせを検討して作成する「サービス等利用計画」の作成を相談員2名体制で行っています。また、福祉サービスの利用申請や利用できる事業所探しなどのサポートも行い、福祉サービス等を利用しながら住み慣れた地域で暮らしつづけられる事をサポートしています。

そうは言っても、“最も適切”というものを見つける事は非常に難しく、何が正解かという事も分かりません。障がいのある人たちやそのご家族、各種関係機関と話をしながら・悩みながら、一人ひとりに対して、“どのような暮らしを望んでおられるのか”という事を考えて、そこに少しずつでも近づいていけるようにサポートをしていきたいと思っています。（寺田 文）

きらリンク拠点

北部障害者地域生活支援センターきらリンク

京都市北部圏域（北区、左京区）在住の障害のある方々（障害児を含む）とそのご家族を対象とする相談機関です。一般相談支援事業として相談者の生活に関わる課題整理を一緒にさせていただいたり、他の関係機関と必要な連携を取ったりしています。計画相談支援事業としては、必要に応じてケアプラン作成やセルフプラン作成のお手伝いも行っています。それに加えて、基幹型の支援センターとして障害福祉事業所からの相談にも応じています。

また、京都府障害者ITサポート事業として、専門機関にご協力いただき、重度身体障害者のためのコミュニケーションツールである「パソコン補助具・意思伝達装置」の紹介やパソコン操作をもっと楽しんでもらうための「パソコン応用講座」を実施しています。例年ITサポート事業は8月くらいからの開催予定となります。開催内容については年によって変更がある場合ありますので、広報チラシでご確認いただくか、直接お問い合わせください。（佐藤 匡）

西陣会居宅サービス係

西陣会居宅サービス係は、2003年4月から始まりました。障がいのある方々へのヘルパー派遣事業になります。ご利用者に何かあっても事務所から駆け付けられるようにしたいという思いで、上京区、隣接する中京区・北区（一部地域除く）をエリアにさせていただいています。外出時、希望される場所に一緒に付き添いをさせていただいたり、自宅やグループホーム内での起床介助、入浴や食事介助をさせていただいています。

開始当初は外出支援がほとんどでしたが、19年が経過し、現在は、ご利用される方々も年齢を重ねられ、居宅内の利用をされる方が多くなってきました。外出支援も継続してご利用希望をいただいております。これからも、ご利用いただく皆様一人ひとりが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていただき、自立と社会活動へ参加いただけるように、寄り添える存在であり続けたいです。（山本 みちる）

にしじん拠点

中部障害者地域生活支援センターにしじん

京都市中部圏域（上京区、中京区、下京区、南区）にお住まいの障害のある方々（障害児を含む）とそのご家族や支援者の方を対象とする相談機関です。障害のある方々の地域での生活にまつわる様々なご相談をお聞きして、一緒に解決策を探していくというスタンスで相談を実施しています。必要に応じて、サービス等利用計画書やセルフプランの作成のお手伝いをさせていただいたり、基幹型支援センターとして障害福祉事業所からの相談にも応じています。

職員は現在6名。障害のある方々がその人らしく生活できるようサポートするには難しいことも多いですが、いつでも職員同士で相談し合うことのできる環境もあり、地域の関係機関の方々とも連携しながら取り組んでいます。

これからも障害のある方々やそのご家族が安心して穏やかに暮らすことができるよう、関係機関の方々との連携を深めながら取り組んでいきたいと思っております。（万代 由香利）

西館拠点

西陣会ホームとなり

2013年4月にショートステイゆうと共に法人本部隣地にて開所しました。建物自体は昔の日本家屋で木がふんだんに使われており、何とも温かみのある雰囲気です。主に知的に障がいのある方が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことが出来るよう、入居者に必要な入浴・排泄・食事・相談等の支援を行い、複数人で生活を共にするグループホームです。

事業開始から数年が経ちましたが、途中他住居へ引っ越しされる方がおられ、メンバーは変わっていますが、現在4名の方が入居されています。みんなでご飯を食べたり、テレビを見たり、それぞれの居室でゆっくりと思い思いの時間を過ごされたりと様々です。一人一人に合った生活を入居者と一緒に考え、グループホームの職員だけでなく、ポイントで居宅サービス係のヘルパーも従事し、アットホームな雰囲気の中、皆でワイワイと生活しています。（赤尾 幸雄）

きたまち拠点

西陣会ホームきたまち

2018年5月に開所しました。西陣会ホームとなり同様主に知的に障がいのある方を対象にした6名定員のグループホームです。2階にはワンルームタイプ設計の“ネイバーフッドきたまち”が設けられました。

西陣会ホームとなり開所から数年が経ち、多くの希望者がおられたため、法人としても新たなグループホームを望んでいましたが、土地や建物には莫大な費用を要し、西陣会ホームとなりや居宅サービス係事務所から遠く離れてしまうと連携が取りにくく、場所も大きな課題でした。そんな時、関係者から声をかけてもらい、北野天満宮近くという好立地での閑静な住宅街にオーナー建て貸しでのグループホームを運営する運びとなりました。オールフラットのバリアフリー設計になっており、車イスの方にもご利用頂けます。初めての翔鸞学区になりますが、地域行事に出来る限り参加し、より良い関係性を作っていければと思います。（赤尾 幸雄）

ショートステイゆう

障がいのある人たちの地域での暮らしに対する支援に一助になるもの（事業）を実現するべく、約2年半の準備期間を経て、2013年4月に開所しました。京都市上京区・中京区・北区（一部地域を除く）にお住まいの障がいのある18歳以上の方を対象とした短期入所事業です。一日の宿泊人数は3名（個室三部屋）まで という中で、登録者数は50名を超えて、稼働率は開所以来90％以上で推移しており、地域での暮らしに対するニーズの高さを感じています。

“外泊体験”“家族の休息”“楽しみ・リフレッシュ”“親亡き後を考えて”など、一人ひとりちがう目的で宿泊をされています。短期入所だけで障がいのある人たちやそのご家族の地域での暮らしを大きく支えることは難しいと思いますが、例え一日でも寛ぎの時間があり、また明日に向かって前向きになれるような場所・存在でありたいと思っています。（寺田 文）

ネイバーフッドきたまち

2018年5月に学問の神様で有名な北野天満宮の近くに「ネイバーフッドきたまち」がオープンしました。

主に知的障がいのある人が暮らせるワンルームマンション（サービス付き障がい者住宅）です。様々な相談に応じながらヘルパーを利用し、緊急時でも備えのある居住空間として6名の方が現在生活されています。

4年が経過し、入居者の皆さんの生活も安定してきました。集団生活が馴染みにくい「自閉的傾向」のある方にとっては、地域の中での生活スタイルの一つとして注目され、この実践を見学に来られる方も多いです。一人暮らしされている方にポイント（主に朝夜）でヘルパーが支援に入って生活をするスタイルで、深夜帯はグループホームでしたら夜勤者を配置していますが、ネイバーフッドでは宿直者を配置しています。ときには1階のグループホーム「西陣会ホームきたまち」の職員とも連携しながら、より安心のできる生活に取り組んでいます。（宮崎 一弥）

おおきなピーポの樹の下で

2018年3月18日、「ピーポ」が40年の歴史に幕を閉じました。西陣会を拠点に、障害のある子どもと親とボランティアの3者が集まって活動していたグループでした。毎週土曜日の午後、子どもたちとボランティアでお出かけやイベントを行い、その間に保護者はお互いに相談や情報交換を、また毎月1回土曜夜には「親ボラ」と称して、親とボランティアによる運営等の話し合いが行われていました。

ピーポが誕生したのが1977年。障害のある子どもが通う特別支援学校(当時は養護学校)が義務化(1979年)される前のことでした。ピーポを通して、西陣会では障害のある子どもたちと出会い、学童クラブでの障害のある子どもたちの受け入れを始め、それが後に京都市全体に広がりました(1995年)。また、学童クラブを卒所していった子ども達の居場所としてタイムケア事業「うぃず」(2007-2021年)ができました。

また一方で、ピーポは高校生までを対象にしていたので、卒後の居場所として地域活動支援センターふらっと(当時はふらっと)が生まれました(1989年)。そこが、西陣会が障害のある人たちとの出会いの原点となり、デイセンターふらっとや西陣会居宅サービス係、さらにはグループホームやショートステイ等の事業につながっていきました。現在もピーポ出身者が、それらの事業を複数利用されています。

そんな現在の西陣会のさまざまな事業の原点でもあったピーポが40年の歴史に幕を閉じたのは、社会全体として障害のある子どもが利用できるサービスが拡充してきたという背景がありました。具体的には、2003年に支援費制度(現、障害者総合支援法)、2012年に放課後等デイサービス事業が国の制度として創設されたことも大きく影響しています。

これまで社会資源がなかった中で活動を続けてきたピーポ。しかし、さまざまな社会資源が誕生してきた時、ピーポの存在意義が問われ始めました。そんな頃から最期を迎えるまでのあいだ、ピーポに出会った人たちの座談会をお送りいたします。

上羽 尚美
2009年度、2011年度会長
長女の美玖さんは2005年～2014年のメンバー

椹木 翔子
2010年度ボランティアリーダー
高校生のときにピーポに出会う
卒後、児童発達支援施設で働く

松井 佑介
2016年度ボランティアリーダー
大学生のときにピーポに出会う
卒後、放課後等デイサービスで働く

中山 あい
西陣児童館館長
京都市民福祉センター館長
当時のピーポ担当窓口

答えのない問い

中山 今日は久々にお会いできて嬉しいです～。

松井 初めまして‥‥ですよね？

中山 え？ 上羽さんに会ったことなかった？

上羽 こうやってお話するのは初めてかも‥‥。

中山 ひょえ～、そうでしたっけ(笑)

上羽 でも、知ってますよ、まっつんのこと。ピーポさいごのボランティアだったんですよね。

松井 あ、はい。

中山 翔子ちゃんは二人とも知ってるよね？

椹木 もちろんです(笑)

中山 じゃあ、改めてよろしくお願いします。皆さんがピーポに出会った時ってどうでした？

上羽 私が入ってすぐのときかな。西陣会から投げかけられたんですよ。ピーポはどうしたいんですか？ って。入ってすぐですよ。

中山 それは、ヘルパー制度がはじまったってこともあったんですよね？

上羽 そうそう、毎回ここに来なくても、親同士やボランティアとも話し合いをしなくても、子どもが出かけられる時代になったから。

中山 うんうん。

上羽 ちょうど親の価値観も変わりはじめた頃だったと思う。私がピーポにいる間にも、途中で何人かやめていかれましたよね。

中山 そうでしたよね。

椹木 私が入った頃は上羽さんみたいに昔の西陣会のことを知っている人と、新しい価値観の人が両方いたような。

中山 新しい価値観って？

椹木 他に予定があるんでピーポ休みます。って、言える人が現れたというか。

上羽 今までやったら、ピーポしか選択肢がなかったからね。

椹木 別に休むことが悪いわけじゃないんですよね。私がいたときも、もう嫌ってくらいピーポの存在意義みたいなことを問われてました。

上羽 ほんとに、人によって価値観もピーポに求めてるものも違うし、答えのない問いをみんな抱えてたと思う。

中山 親ボラでもずっと話してましたもんね。

松井 僕が入った頃は、終了に向かっていくような話題になることもありました。

中山 最後は二人だったよね。子どもたちが。

松井 はい。ピーポってなんやろうみたいな話よりかは、この二人がたのしめることってなんやろみたいな割り切りがあったと思います。

こんな場あったら

中山 その時々で、みんな真剣に考えられていましたよね。どんな場でありたいのかって。

椹木 今思うとおかしいんですけど、私のときにピーポが終わったらどうしようってずっと考えてました。

中山 それはみんな、感じていたと思う。ちょっと話が変わるかもしれないけど、ピーポから離れてみて、今こんな場あったらいいなって思うことありますか？

松井 僕は放課後デイで働いてるんですけど、ちょっと悩んでいて‥‥。

中山 悩みって？

松井 もっとピーポみたいに子どもと深くかかわりたいし、親御さんとも話したいというか‥‥

上羽 制度や仕事になると、また違った部分が出てくるよね。ピーポはボランティアだったし。

松井 今もピーポみたいな場所があればいいなと思います。なかなか難しいけど、つくりたい。

中山 まっつんらしいね。

椹木 あのときはピーポがすべてみたいに思っていたかもしれないけど、社会にもっと選択肢がいっぱいあればって、今は思います。

中山 選択肢って？

椹木 私は児童発達支援で働いているから、就学前の保護者の方から相談されたりすることもあるんですけど、小学生になったら放課後デイに行くのが当たり前みたいな雰囲気が今はあって。

中山 うんうん。

椹木 でも、学童クラブとか児童館も選択肢にあるわけで、他にも習い事だって。

上羽 習い事は健常児しかできないなんて、昔のことであってほしいと思う。

椹木 だから、いろんな選択肢があることが社会の土壌としてあって、それを知れたり選べたりするお手伝いをできたらと思ったりしますね。

中山 そうだよね。私たち児童館も選ばれる選択肢になっているのか問われていると思います。上羽さんは、美玖さんが卒業されてからいかがでしたか？

上羽 学校に通っている間は親の世代もだいたい同じだったけど、卒業して通所先に行くと年齢の幅や世代も全然違いますよね。

中山 はい。

上羽 やっぱりそのなかで、誰かとつながっていくのが難しくなってきたなと思ってますね。社会とつながっていないと何が起こっているかわからないし、政治や制度も変わっていくから‥‥。

中山 自分からつながっていかないといけないところもあるんでしょうね。

上羽 だから、社会とつながっていくことを自分の課題にしてますね。デジタルがいろいろ進んだとしても、人と人がつながれるいいコミュニティーがあったらいいなと望みます。

不易流行、その心は

上羽 やっと思い出した！ はぁ、スッキリ(笑)

椹木 えっ？ なにをですか??

上羽 不易流行。最近知った松尾芭蕉の言葉なんだけど、ピッタリだと思って。ピーポってどんなところ？ の答えというか。

中山 へ～～～。どんな意味なんですか？

上羽 不易っていうのは変わってはいけないもの。流行は変わっていくこと、かな。樹に例えると、不易は幹や根っこ。流行は葉っぱや花とか。ピーポもそうやったんじゃないかなぁと思って。

椹木 これまでの出会いや歴史みたいな幹や根っこがあって、季節とともにいろんな葉が茂り、花が咲いて、実を結んで‥‥ピーポという樹の見た目はかわっても、ピーポ自体は変わらないというか‥‥そんな感じですか？

上羽 そうそう。松尾芭蕉は、不易も流行もどっちも大事って言ってたみたい。

中山 へ～～～。

椹木 そういえば、ピーポで毎年発行していた冊子の名前は「むすぶ」でしたね。

上羽 毎年ちゃんと実を結んでいたんだよね。

松井 あのぉ‥‥。

中山 はい？

松井 僕がいたとき、ボランティアだけのノートがあって。それに書いてあったんです。

中山 どんなことが？

松井 変えてはならないものを守るために、変えられるものを柔軟に変えていくみたいなことが。だから、ビックリして‥‥。

一同 え～～～。

中山 きっと、ピーポという大きな樹の下で、皆さんつながっているからなんでしょうね。今日はありがとうございました。

取材日：2022年2月15日

ボランティアっ!?

「ボランティア」という言葉が一般的に使われる前から、西陣会はボランティアに支えられ、活動を続けてきました。地域の中で行う側でもあり、受け入れる側でもあり、つなぐ側でもある西陣会の中で「ボランティアと言えばこの3人!」に集まっていただき、自由にお話いただきました。「ボランティア」というキーワードを通して、今の西陣会が見えてくるかも!?

ボラからはじまった

――今日はよろしくお願いします!「ボランティア」というテーマで何時間でも話せそうな3人に集まってもらいました。

藤賀 僕はボランティアから職員になったんですけど、初めて来た日、鬼塚さんがオリエンテーションしてくれました。

鬼塚 そうやったっけ?

藤賀 2009年。骨折されてる時でした(笑)。

鬼塚 もげそうで、もげなかった(笑)

本林 一緒にツーリング行ったとき、足がもげたかと思ったもん。

藤賀 ずっと事務所におられたし、事務の人やと思ってました(笑)

――そもそも藤賀さんがボランティアに来たきっかけって?

藤賀 就活からの逃げ(笑)。3回生になって、何もしてないのに就活しないわけにもいかず。「京都 ボランティア 子ども」って検索したら、西陣児童館が上の方に出てきたんです。

鬼塚 それからどっぷり。

藤賀 その時の学童は3年生で卒部やったんです。僕が3回生のとき1年生やった子を卒部するまで見られへんやないかいと。就職してしまったら(笑)。なんかいい方法がないかと探した結果、奇跡的に大学院にいけまして(笑)。

鬼塚 そういうボランティアがいたのって、藤賀さんが最後かなぁ。昔は、週6日来てた人もいたんやけど。息抜きにって(笑)。

――本林さんは藤賀さんより一回り上の世代ですけど、どんなきっかけで来られたんですか?

本林 忘れもしない4月1日。宮津から京都に浪人生として来たわけ。夜ね、コンコンとノックされて。誰も知り合いなんていないのに。

鬼塚 へえ〜。

本林 わっ、都会って怖いって(笑)。隣の隣の部屋の人が、「一緒にご飯食べませんか?」って。

鬼塚 今の時代では考えられないですね。

本林 知らないのに決めつけちゃいけないって、その時のポリシーがあったからなんやけど。結局、一緒に食べたわけ。

鬼塚 さすが本林さん!

本林 その人が、夜ふら(地域活動支援センターふらっと)のボランティアやって、誘われたんよ。当時、ボランティアのこと懐疑的に思ってたんやけど、決めつけちゃいけないから。

鬼塚 行っちゃったんですね(笑)

本林 これも忘れもしない金曜日、京都に来た5日後の4月6日。初めて行った金ふら(金曜日グループの夜ふら)が衝撃的すぎて(笑)

鬼塚 そっからハマっていったんですか?

本林 ふらっとの名前の由来にあるように、フラットな関係というか、同じ目線でいるところとか、俺が求めているのはこれよ! ボランティアとかじゃなくって、一緒に考えて一緒にやればいいじゃんって。

鬼塚 へ〜。

本林 そんなことだから、福祉の勉強するよりもここで実践してる方がいいじゃんって(笑)。週5日くらい来てたなぁ。

求められている成果

――二人のボランティアに来たきっかけ、面白すぎます! さっき鬼塚さんが、藤賀さんみたいなボランティアがいなくなったって言ってたけど、それってどういうこと?

鬼塚 2011年の東日本大震災が起こってから、うちに来るボランティアがガクンと減ったってのもあるかな。見向きもされなくなった時期もあったし。

――学生さんたちが求めているものも、この10年でかなり変わってきてるような気がするけど。

鬼塚 昔はみんな暇やったというか(笑)、藤賀さんみたいに純粋に子どもと関わりたい人が多かったけど‥‥。

――藤賀さんは、「うぃず」でずっと学生さんたちと関わってたけど、感じることある?

藤賀 なんやろ、その、大学4年間で何を得るのかということが、すごい大事になってきたんやろうなって思います。

鬼塚 うんうん。

藤賀 僕とか一切そんなんなかったんですけど、何かを得るためのひとつの手段としてボランティアがあるというか‥‥。

鬼塚 ボランティアの成果みたいなのが求められているんやろうね。

藤賀 こんな活動できますだけでは、来てくれる時代は終わったのかなと。活動の中での役割とか、成果とかを伝えた方が来やすいんじゃないかと思いますね。

本林 それって、社会の変わりやんな。俺が若いころは、実際に人と会わないと知ったり学んだりできなかったから。

鬼塚 アパートの隣人が声をかけてくることは、もうないでしょうね(笑)

本林 今の時代SNSもあるし、人と人とのつながりとは別のところで目的を持たなくちゃならないんかもな。

藤賀 継続してその人と関わり続けるっていうのが一番おもしろいのに、どうやったらそこに気づいてもらえるかって思うんですよね。

鬼塚 すぐにはわからないおもしろさも含めて、どう伝えていくかってことが、職員側に求められているんやろうね。

互いを知ることから

――コロナ禍で、ボランティアを受け入れたり、地域活動をしたりすることが一気になくなりましたけど、今後やってみたいことありますか?

本林 コロナのせいでイベントも中止になったり、みんなと飲みにいくこともなくなったからなぁ。毎日忙しいのもあるけど、楽しいことを皆で一緒に考える時間とかつくれたらいいな。

鬼塚 やっぱり、相手もだけど自分も楽しいってことが大切ですよね。

本林 普段は仕事としていろんな人と接しているけど、相手のことを知る場面が少なくなってる。だから仕事以外の場面で交流しようってわけじゃないけど、ボランティアも利用者も職員も、お互いのことを知ることからはじまることってあるよなって。

藤賀 それ、すごく思います。僕、レクリエーション委員会※の担当になったんですけど、職員同士もお互いを知れるような機会をつくりたいと思ってます。

(※)職員の内部交流推進を目的とした委員会で、交流会の企画や、職員有志のサークル活動やイベント実施のサポートを行っている。

鬼塚 ボランティアの受け入れも、単にマンパワーとして考えてるんじゃなくて、その人の想いを受け止めて自己実現のお手伝いできたらなぁと思うし。

藤賀 そうなんです。それって、ボランティアだけじゃなくて職員にもあてはまる部分あるんじゃないかなと思ってて。

本林 そうそう。なかなか余裕がないんだけど、仕事の中でも、お互いのことを知る場面をつくっていくことも必要なんだろうな。

鬼塚 今の話聞いてて、仕事の締め切りに追われている自分を反省してます(笑)。自分の働き方も含めて、自分だけ頑張ればOKじゃなくて、自然と交流できる仕組みもつくれたらと思うかな。

――ボランティアの話から、僕たちの働き方の話まで広がってきましたね。

藤賀 この前、若手男子で飲みに行ったんですけど、驚きの事実がわかって。

鬼塚 なになに?

藤賀 僕は若手男子5番目にあたるんですけど、僕までの5人全員が学生時代に西陣会と関わりがあったんです。

鬼塚 へ〜、それって‥‥。

藤賀 学生のときに大切にしてもらえたじゃないけど、そういうのもあってここで働きたいなっていうのが少なからず皆あると思うから。

鬼塚 から?

藤賀 逆に言えば、この方法しかないなと。若手をリクルートしたいなら、学生の時から繋がっておくと!

鬼塚 なるほど!

本林 俺もそういう縁があって今も働いているんだろうな。

鬼塚 そういう意味では、多くのボランティアの入り口になっている児童館の担っていることって、法人にとっても重要な部分なんだなと思いますね。本林さんや藤賀さんみたいな人にこれから出会えるかもしれないし(笑)

一同 (笑)

――――時代や社会が変わっても、ボランティアと関わり続ける西陣会でありたいですね。今日はありがとうございました。

聞き手:小西秀和
取材日:2022年8月3日

デイセンターふらっと所長、シェアハウス小松原の家責任者、MYM責任者を兼務。
シェアハウスがある地域の町内会活動や西陣の朝市マルシェに長年携わっている。

本林 直人

西陣児童館主任、西陣会レスパイトサービスコーディネーター、地域活動支援センター担当、MYM担当を兼務。
嘉楽学区体育振興会町委員や、学区イベントに長年携わっている。

鬼塚 義正

西陣会ホームとなりサービス管理責任者、地域活動支援センター担当を兼務。法人内のレクリエーション委員や人材育成を担当。
京都市上京消防団嘉楽分団に所属。

藤賀 一暢

「センター」のレガシー

今から60年前、西陣会にひとつの建物が与えられました。完成当初は「西陣労働センター」として、その次は「西陣市民センター」に改称し、そして西陣児童館建設時に現在の「京都市民福祉センター」へと受け継がれてきました。

そんな西陣会の建物のことを親しみをこめて、みんな「センター」と呼んでいました。

「センター」設立当初、若者として活動に携わられ、ずっと西陣会を支えてきてくださっている御三方に貴重なお話をお伺いしました。

井上 晁

西陣会支える会会長

井上 雅治

元西陣会理事

長井 晴喜

元西陣会理事

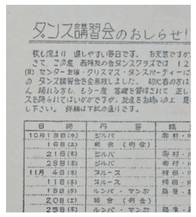
1枚のハガキには、

――今日はどうぞよろしくお願いいたします。ちなみに、一番古いのは誰になるんでしょうか？

井上晁（以下、晁）まあちゃん（井上雅治さん）と僕は、いっしょの頃なんや。

井上雅治（以下、雅治）これね、昭和38年の消印。59年前。宛名は晁はんの手書きの字やねん。裏はガリ版※のダンス講習会の案内や。

(※)コピー機がなかった時代の手刷りの印刷方式



ダンス講習会のおしらせ!

秋も深まり 涼しやすい季節です。 お元気ですか
さて、この度 西陣知の会ダンスクラブでは 12
月 センター主催 クリスマス・ダンスパーティーこ
の ダンス講習会を企画致しました。 初心者の方は
も、踊れる方も、もう一度 基礎を習得されて 楽し
く気持ちのいいひとときを、過ごされるためにぜひ 是
非 参ください。 詳細は下記の通りです。

日	時	内 容	講
10月13日(水)	七ルバ		南 村・
18日(水)	桃 舞	(内 容)	
21日(水)	ジルバ		南 好・
28日(水)	ジルバ		南 好・
11月 4日(水)	フルース		時 田・
11日(水)	スルース		時 田・
18日(水)	ルンバ、マンボ		島 塚・
25日(12)	桃 舞	(内 容)	
29日(水)	ルンバ、マンボ		島 塚・

――初めて見ました。

晁 僕らがセンターに来たときは毎晩ね。曜日によってレコードクラブとかダンスクラブがあったんや。ハイキングもあったなぁ。

雅治 そんなサークルにかかわる人たちに向けたキャンプやクリスマスのイベント案内もぜんぶ晁はん、やってくれてた。

晁 もう今はできひん(笑) センターができる前は、喫茶静香※で集まってたんを覚えてるわ。

(※)千本今出川西入南側にある昭和12年創業の老舗喫茶

――センターができてからは、職工さんと言われている西陣地域の働き手や若者たちが、サークルやイベント目当てに集まってきてたんですね。

雅治 そやけどな、センターを維持していくために、とにかくお金も必要やったわけ。

晁 ほんまにお金には苦労したなぁ。

雅治 診療所があった頃も、レントゲンを買うためにバザーで資金集めしたり‥‥。

長井 バザーのことはよう覚えとる。自分で商品出して売るやろ、売れ残ったら買うやろ、食券も買って配るやろ‥‥もちろんボランティアやで。言うてみたら、バザーするよりも寄付した方が早いんちゃうかって。

一同（笑）

――その頃って、誰が中心人物やったんですか？

晁 金子さんやな。

長井 あの人は、ここが命みたいな人やった。

――当時って、誰もセンターからお給料をもらってなくて、自分のお仕事されながらセンターの活動をされてたんですよね？

雅治 金子さんは仕事1割、9割はここのことやった。いつもお金を集める方法を考えてはって、それが賛助会※やったりクリスマス献金したり、体も動かしてお金もだして、きばってはった。

(※)センターの活動を支援することを目的に結成された団体(1975-2012)。会員は毎月1千円の会費を納めた。

――自分たちの居場所を自分たちで守っていくために、必死だったんですよね。

雅治 そうや。みんなボランティアで活動するのが当たり前の時代やったし、真剣やからこそ喧嘩もようあった。

長井 金子さんとは、よう喧嘩したわ。今の時代やったら、喧嘩もボランティアも流行らへんやろな。

晁 ほんでも、なんか心打たれるものがあって、みんながセンターに集まり続ける時代やったんやろうなぁ。

センターの分岐点

――晁さんと雅治さんはセンターができた同時期に、そこに集う若者として出会われたってことですが、長井さんは？

長井 僕はね、ピーポっていうグループがきっかけやった。うちの息子がピーポに入ってたんやけど、初めは拠点がなかって。

――僕もピーポボランティアだったんで、聞いたことあります。

長井 診療所のあとに学童保育ができてやな、そこにうちの息子も入らへんかって声かけてもろたんがきっかけやった。

晁 賛助会の行事で長井さんと出会ったんやけど、山城※の同級生でビックリしたわぁ。

(※)山城高校

長井 息子をみてもらうかわりに、センターのお手伝いをしますってことで、賛助会にも入ったり、バザーの手伝いしていくうちに親しうなっていったんや。

――そのうちピーポもセンターを拠点に活動するようになったんですよね。

雅治 ちょうどその頃がセンターの分岐点やったんちゃうかな。今から思たらやけどな。

――分岐点って？

雅治 わし、こんなこと聞かれたんや。「井上さんちょっと、お宅は何でお世話になってるんですか？」って、とある保護者から。

――どういうことですか？

雅治 尋ねた人は、子どもがお世話になっていると思ったんやろな。そんなん違うて来てるんですって言ったら、すごいビックリされたことがあってやな。

長井 あのね、ずいぶん前のことやけど。「センターには子ども、若者、障がい者、高齢者の四本柱があるんや」って話したとき、若い職員さんたちは知りませんって言うてたことがあったわ。

晁 配食サービスきずな※もやってたなぁ。

(※)西陣地域在住の高齢者を対象に実施(1984-2004)

――今の西陣会は事業として障がいのある人を支える仕事が多いですけど、僕はそれだけじゃないって必ず言うようにしてるんです。

雅治 それって、2回目の分岐点ちゃうやろか。

――1回目の分岐点は、若者たちの居場所から子どもや地域の人たちを支える場所になったとき。2回目の分岐点は、障がい福祉サービスが一気に広がったとき。なのかもしれないですね。

晁 だいたいやけど、20年に1回くらいのペースなんやわ。だから、今くらいが3回目の分岐点かもしれへんなぁ。

伝えたいメッセージ

――この60年間の歴史を一気に振り返ってるような気分になってきました。最後に、これからの西陣会に向けてメッセージをいただけますか？

晁 いちばん自慢に思うのは「絆」っていう言葉やな。兄貴がこれ読んでみぃって、『人間の絆(サマセット・モーム著)』っていう小説渡してくれたんやけどな。

――いろんな場面で「絆」が使われています。

晁 「西陣会便り」の名前を変えようってなったとき※に、「絆」って言葉が出てきたんや。もう死語やって、そのとき言われたんやけどな(笑)。

(※)現在の「センター便り絆(1975年～)」に名称変更

――ずっと受け継がれていく言葉なんでしょうね。ありがとうございます。雅治さんからは、特に若い世代に伝えておきたいことってあります？

雅治 ありきたりやけども、わしはやっぱり、「仲間」。年齢やとか性別やとか超越して、仲間が仲間として仲間らしい仲間のなかで仲間があるっていうね。

――えっ？「仲間」ですか。

雅治 今やったらちょっとでも給料や条件がええとこに行かはるかもしれんけど、ここのええところは仲間を支えたり、仲間に支えられたり。しょっちゅう喧嘩してたんも、仲間やからね。

――仲間だからこそできることって、あると思います。

雅治 喧嘩できるだけええですよ。気ばっかり遣って喧嘩できひんのもアレやしね。言い換えれば「絆」になるかもしれんけど、どちらかというと「仲間」、やと思います。

――ありがとうございます。「仲間」だからこそ、西陣会が今まで続いてきている部分があるんだと思います。長井さんから、西陣会に期待したいなってことありますか？

長井 僕らの時代はね、職員にしてもボランティアにしても、ここに集まってくる人みんな、他人に想いをかける力があったんやわ。

それを「やさしさ」って言うんかな。今やったら、嫌なことあったら他所行きはるわな、辞めてね。

――そうですね。

長井 みんなが安心して来られるっていうな、そういうとこ大事やさかいね。人数が多くなってきたら難しなるけどな。そういうなんがノスタルジーであるわ。うん。残ってほしいなぁ思って。

――「絆」「仲間」「やさしさ」‥‥、オリンピックレガシーとか言われてますけど、センターのレガシーとして受け継いでいきたいと思います。

雅治 せやけど、時代は違うんやから。残すんは1/3くらいにしといて、2/3くらいは自由に変えてもろたらええと思うわ。

――忘れちゃいけないところは残しておきながら、新しい風を取り入れていかなきゃいけないんでしょうね。

晁 社会全体も転換期を迎えているやろうし。

長井 なあ、晁はん。これから10年先なったらどうなっとるかわからへんもんな。もちろん死んでるけど(笑)。8月でね、80歳。

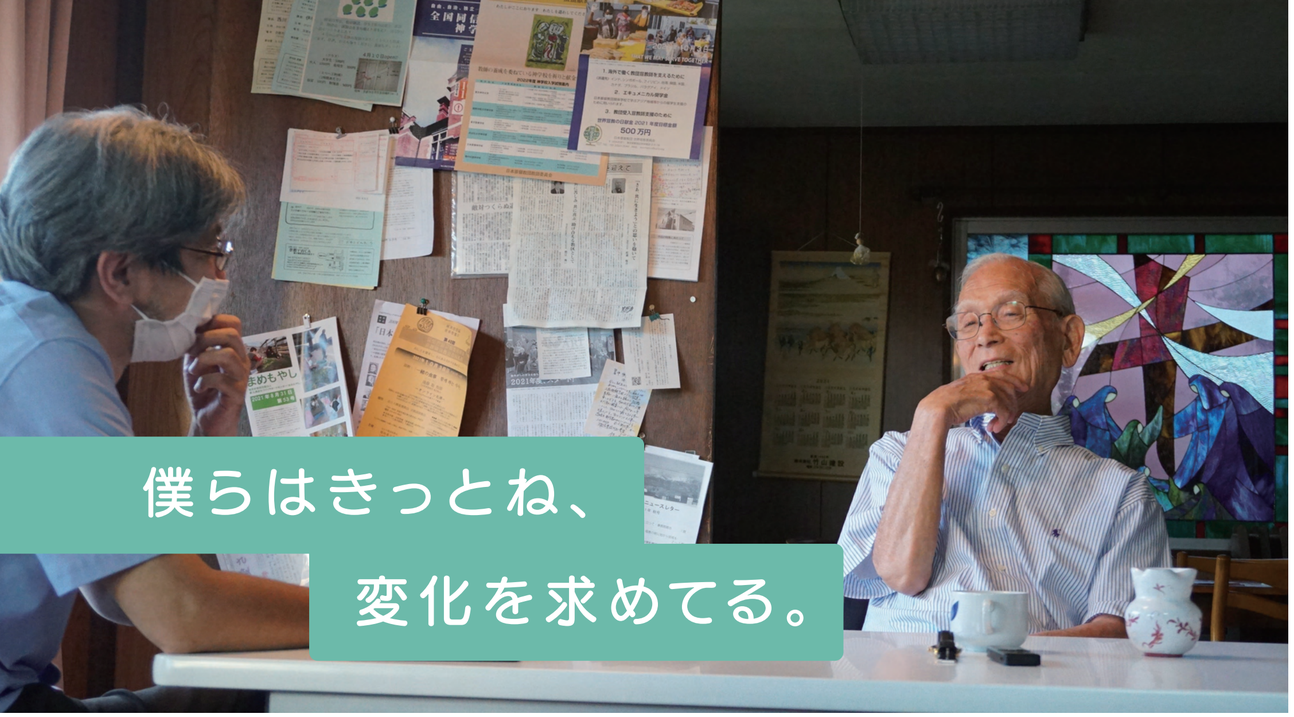
晁 まだいるの？って言われたらかなわん(笑)。

――じゃあ、10年後、もっかいやりましょう！

一同（笑）

――今日は御三方からお話を伺えた本当に貴重な時間でした。ありがとうございました。

聞き手：宮崎一弥
取材日：2022年4月30日



僕らはきっとね、変化を求めてる。

深田先生おしえてください！西陣会ができる前のこと。-

インタビュアー

土屋 健弘（ツチヤ ヤスヒロ）

1970年生まれ。同志社大学大学院博士前期課程（社会福祉学）修了。在学中から自立生活問題研究所非常勤研究員を経て、西陣会入職。支援センターきらリンクセンター長。社会福祉法人西陣会統括責任者。

深田 未来生（フカダ ミキオ）

1933年、アメリカ・カリフォルニア州に生まれる。自由学園高等科を退学後、渡米。ベーカー大学（社会学）、ボストン大学神学部（神学・社会倫理）、クレアモント神学大学院（実践神学）に学ぶ。1960年、アメリカ合同メソジスト教会宣教師として再来日。西陣労働センター（現在、京都市民福祉センター）館長を務めると同時に、同志社大学神学部の教育に携わる（実践神学、1966～2004）。同志社大学名誉教授、社会福祉法人西陣会元理事長を歴任。

はじまりは1960年

土屋 ご無沙汰してます、先生。今日は西陣会ができる前のことをお聞きできればと思ってます。

深田 これまでいっぱい話してきたと思うんだけど、今から60年以上前だよね。

土屋 過去の記念誌とかを読んでも、1962年に任意団体西陣会が設立してからのことはいろいろ残っているんです。

深田 1962年ってのは建物だからね。建物に至る道のりってのが、なかなか大変だったんだよ。

土屋 はい。まさに、今日はその設立前のことをちゃんと知っておきたいと思いまして。

深田 僕にとってはね、1960年が西陣会誕生の年なんだよ。

土屋 1962年じゃなくて？

深田 僕が日本に帰ってきたのは1960年の8月の末だったかな。10月から寝屋川市の同志社香里高校で英語教師をすることになってね。英語の先生なんてするつもりなかったんだけども。

土屋 なかったんですか（笑）

深田 僕は労働者の世界というか、特に宗教的な分野で働きたいと思っていたからね。2年間は棚にあげとくという気持ちで香里高校に通ってたんだよ。

土屋 お住まいは京都だったんですか。

深田 船岡山のふもと。巨大な畳60枚の家。同志社校友会会長の村田さんという人の所有で、空いてるからというんで、妻と二人して。数週間後には犬を飼って、二人と一匹で暮らし始めた。

土屋 そうだったんですね。

深田 そのとき知らなかったんだけど、船岡山は西陣の一端だった。僕は、アメリカで生まれ東京で育って、16歳からアメリカで高校から大学院を終えるまで過ごして、同志社に招かれて日本に帰ってきたんだけども。

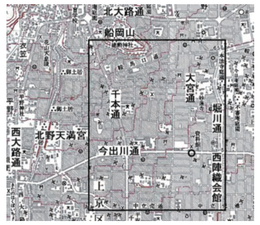
土屋 はい。

深田 戦争中は学童疎開で1年間栃木県にいたけど、東京しか知らなかったわけ。京都はカルチュアルショックだったし、1960年は僕の人生のなかでも大きな転機だったね。

土屋 はじまりは1960年だったわけですね。

「西陣」ってどんなとこ？

市街地の北東部。北区と上京区にまたがる広い地域の名。応仁の乱（1467-77）で、東軍の細川勝元に対して、西軍の山名宗全が堀川上立売付近に本陣を築いたことから地名となった。今も地域内では機織りの音が絶えず、ここで織られる伝統工芸品・西陣織は国際的に有名。右図四角枠内がおおよその西陣地域（京都観光オフィシャルサイト、京都歴史資料館資料より）



竹中先生と志茂くん

深田 船岡山のふもとで生活をはじめて間もなく、竹中先生に出会いました。

土屋 同志社大学神学部の竹中正夫先生ですね。

深田 アメリカのイェール大学で博士号をとった社会倫理学の先生で、とても若かった。夏の間には炭鉱で働いたりなんかして、キリスト教というものが労働者のあいだでどんな意味をなすのか、あるいは奉仕できるのかということに熱心に取り組まれていた人だったね。

土屋 へえ、学生に人気もあったんでしょうね。

深田 その彼の大学院のクラスでは、学生自身が自分の現場を見つけるところから始まるんですよ。

土屋 自分の現場とは？

深田 そこでの日常的な生活に身を置くってことだよね。そこでものを考えたり、できることをやってみたりしたことを持ち寄るゼミをやっていました。そこに、志茂くんがいたわけ。

土屋 志茂望信さん。記念誌でお名前だけは。

深田 その志茂くんが選んだ現場が西陣だった。どうして西陣を思いついたのかはわからないんだけど。

土屋 そうなんですね。

深田 志茂くんのことは竹中先生から聞いていてね。そうこうしているうちに、彼が訪ねて来たんですよ。僕の畳60枚の家にね。

土屋 畳60枚の家で（笑）、深田先生と志茂さんが初めて出会われたんですね。

深田 そう。僕は27歳でしたけども、志茂くんは神学部研究科生でした。押しの強い男で、彼は思い立ったら行動が早いんです。

土屋 へえ。

深田 彼自身も西陣のことを知っているわけではなかったから、手探りでキリスト教会に行っている青年や西陣で働く人を訪ね歩いていました。そうやって、僕も京都に来てはじめて西陣のことを知るようになったわけです。

土屋 先生から見た、当時の西陣地域の印象はどうだったんでしょう？ 今とはずいぶんちがうんじゃないかと思うんですが。

我々の場所がほしい

深田 もうね、街が暗いんだよ。織屋さんの働く場所ってのも、なんか洞穴みたいでね。そこで生産されるものはすばらしくきれいなの。

土屋 はい。

深田 単に物理的に暗いっていうだけじゃなくてね、depressive－鬱っぽい感じと言ったらいいのかな。当時の日本は暗かったんだよ。

土屋 へえ。

深田 法人本部がある元誓願寺通りなんかはね、そこら中から織機の音がしてね。手機（てばた）だけじゃなくてカシャカシャと機械の音もしてさ、西陣に来たなぁっていう音がそこらじゅうから聞こえてきたね。

土屋 そんな西陣地域で、志茂さんはどんなことをはじめられたんでしょう？

深田 その頃、すでに西陣で活動しているYWCAやYMCA、教会関係のグループがいくつかあった。志茂くんはそこで出会った人たちを結び付けて、協力して活動ができるんじゃないかと思ったんだよね。

土屋 すでに、いろんな活動をされているグループがあったんですね。

深田 そうだね。志茂くんがゼロから新しい活動を考え出したわけではない。

土屋 とても興味深いです。

深田 「なんかやろう！じゃあ、集まろう！」といっても場所がない。YWCAがずっとやっていた料理教室なんかも、みんな場所探しに苦労してたね。西陣に住んだり働いたり活動している人たちの声として、「我々の場所がほしい！」という願いがはじめっからあったようです。

土屋 はい。

深田 志茂くんが西陣を歩きはじめてから1年経った頃には、我々のセンター、我々の場所が必要という構想ができていました。

土屋 おお。みんなの場所づくりが原点だった。

深田 そのプロジェクトのことは竹中先生のゼミでも発表されていて、関心を寄せてくれていました。実は彼、京都大学で経済学を勉強した人なんだよね。

土屋 神学じゃなくて？

深田 そう。キリスト教の世界の人ってお金の勘定が苦手なの。だけど竹中先生はそうじゃなくてね。彼の手によって、みんなのセンター構想に大きな進展を迎えるわけです。

募金活動と建設計画

土屋 志茂さんのプロジェクト案を受けて、竹中先生はどんなことをされたんでしょう？

深田 彼は大学の枠組みを超えて、世界中のキリスト教が関連する「世界教会協議会」で講演もされるような人でした。

土屋 はい。

深田 彼はそこで志茂くんのプロジェクトを念頭に置いて話をされたようです。そして、同志社大学を窓口として、そんな青年たちの活動や教育資金を申請したらもらえたわけ。何百万円だったか忘れたけども。

土屋 当時としては相当な額ですよね。

深田 土地を買うためのね。今の法人本部の土地には、倒産した織屋さんかなんかで半分つぶれてお化け屋敷みたいな建物だったね。

土屋 へえ。

深田 そこが売りに出ていて、どんなプロセスかは知らないけれど、その資金で同志社大学が購入したわけです。

土屋 それってすごいことですよね？

深田 志茂くんの力量もあったんだろうけど、割合はやい時点で土地は同志社が提供する、その代わり建物は自分たちで建てなさい、ということが決まっていたようです。

土屋 募金活動のエピソードは数々残してくださってますね。

深田 もうねぇ、大変だったの。ひとつはキリスト教って言ったら伝道とか改宗とかそういうイメージが強いんだよね。奉仕者や僕(しもべ)というイメージは少ないんだよね。

土屋 ええ。

深田 そういうことが大事だと思って僕らはキリスト教に関係しているんだけどね。あと、思想だけじゃダメなんで、何をやろうとするかを練っていくってことをやりました。

土屋 センターを設計した建築家の黒川紀章さんのエピソードも数知れずですよね。

深田 募金はけっして順調に集まったわけではないんだけど。お金を借りる算段もしながら、どんな建物を建てるかというときに、京都大学の学生だった黒川につながったんだよ。

深田 竹中先生のゼミに阪田さんが入ってきて、その彼の友人が京大の建築だったから設計図を描いてもらったんだけどね。箱なんだよ。箱はつまんねぇなぁと思ってね。

土屋 箱って。

深田 その彼の先輩が黒川だったわけ。黒川に設計図を見せたら、こんなつまんないものをって却下されて、俺やるよって。僕たちは必死にお金を集めているのに、よそで勝手にそんな話になってたら困るんだよ。

一同 (笑)

土屋 苦労したことばかり書いてありました(笑)

深田 あのね、生意気なんだよ。僕より1歳下だったと思うんだけど、雄弁でね。僕らのプロジェクトを聞いて、「そうか、西陣にあたらしい道をつくるっていうことか」とか言うわけ。

土屋 へえ〜。

深田 その頃は有名でもなんでもない男だったけど、志茂くんなんか目を輝かせちゃってさ。

土屋 そんなエピソードがあったんですね。

深田 それは奇抜だったね。周りが瓦屋根ばっかりのところに、白亜の建物ができたんだから。航空写真、見たことある？

土屋 見たことあります！当時はすごく目立っていたんでしょうね。

深田 黒川の設計も箱だったんだけど(笑)、デビュー作（現在の法人本部の奥の建物で、デイセンターふらっとが使用）がまだ残ってるんだから、すごいもんだね。

そこに「いる」こと

深田 それから竹中先生は財団法人西陣会の理事に、志茂くんはアメリカに行っちゃったんだけど。あの種まきがなかったら樹が茂らなかった。

土屋 深田先生や志茂さん、黒川紀章さんも、皆さんが20代だったってことが、にわかに信じられません。

深田 今88歳になれば、いろいろ考えとか変わるんだけれども、そのときはガムシャラだったね。Bittersweetっていうか、苦い思い出と青年らしい甘さがあったね。

土屋 ビタースウィート。

深田 情熱だけはあってさ。「なにかしたい、なにかしなくちゃいけない」ってのがあってね。それって、実に青年らしいことなんだよ。でもね、それが一番だいじなことじゃないんだよ。

土屋 一番だいじなことじゃない？

深田 英語で言うとpresence、「いる」ってこと。我々が西陣の人たちに受け入れてもらえるようになったのは、ずいぶん経ってからだよ。

土屋 そうだとは知りませんでした。

深田 将来教会で働く牧師にも言うんだけどね、「なにかやろう。いい説教をしよう」とかじゃなくてね。そこで信頼関係をつくることが一番だいじ。なかなか実現しないんだけど。

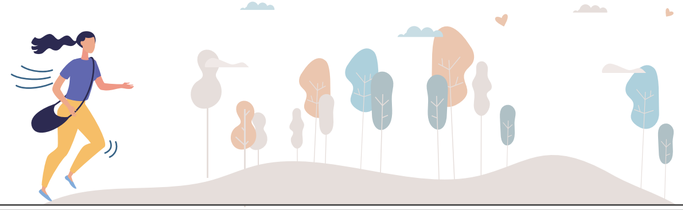
土屋 ええ。

深田 我々も「なにかしなくちゃいけない」をやりすぎて、お金も人も少なくなってきて、時にはつぶれる直前までいっては切り抜けて‥‥そこにも一種の青年らしさがあったんだけれども。

土屋 何かをすることじゃなくて‥‥

深田 現場のことをよく知ること。まわりの人から受け入れられるような存在として、そこに「いる」ことが一番大事なんだよな。

理事長 深田先生、ありがとうございました。



理事長 今日は施設長研修も兼ねて、みなさん集まってますね。私は西陣会の雰囲気が好きで、こうやって関わらせていただいているんですけど。

土屋 はい。南大路理事長、今日もお忙しいなかご同席いただきありがとうございます。

理事長 深田先生がおっしゃったそこに「ある」ということ、スタッフが「いる」ということを皆さんが体現している。自覚しているからこそ伝わってくるすばらしさがあるんだろうなと、改めて思いました。せっかくの機会なので、みなさんの方からも深田先生にご質問などありますか？

TEAMとして

宇川 貴重なお話ありがとうございました。深田先生が西陣会に携わっているなかで、一番苦しかったことを教えていただけないでしょうか？ 今の我々はけっこう苦しい場面が多いと思っていて、ぜひ知りたいと思いました。

深田 いやあ、それはね、人間関係。僕は人間関係が上手だとは思わないんだけど、人間が好きだから。でもね、僕には好き嫌いもあるんだよ。

一同 (笑)

深田 お金のことで心配するのは相当苦しかったけどね、お金が確保できたらだいたいは完結。でも、人間関係ってのはさ‥‥誤解が解けたとしても、その先一歩踏み込んで一緒に仕事したり生活したりできるかっていうとね。なかなかこれが簡単じゃないんだな。

宇川 ああ。

深田 僕らも若かったんだけど。たとえば誰かがリーダーシップを発揮するようになったとき、自分の主張のようなものを押し付けちゃったり、情熱の発散の仕方が良くない方向にいってしまったりね‥‥そういうことあるじゃない。

宇川 はい。

深田 みんな苦労してるってことはわかるよね。その人がとても尊敬に値する存在で、評価してたとしても難しいときもあった。ほんとにね、みんなで一緒に仕事するってのは難しいよな。

深田 でもさ、よくここまでつぶれないできたよね。それはね、いわゆる肩書のあるリーダーだけじゃなくてね、働いている人とか、かかわっている人たちの根っこの働きがあったからなんだよ。

宇川 根っこの働きとは？

深田 やっぱりね、どこかでね、確実に人の役に立ってきたんだよ。

宇川 人の役に立つ。

深田 僕らはね、確実に過剰な責任を負ってるわけだよ。余裕がない生活しかできないっていうか、社会がそういう風にできているんだから。

宇川 そう感じること、よくあります。

深田 国民性もあるんだろうけど、日本人はなかなか本音を出さない。弱さをさらけ出すような気になっちゃう。だから解決も遅くなる。まあ、西陣会だけじゃなくて、どこでも同じだけどね。

宇川 はい。

深田 でもさ、人間だれもが弱さもあるよね。僕らは強がって1日や2日生きられたらいいわけじゃないんだから。燃え尽きないように、どっかに隙間が必要だよね。車のハンドルだって、あそびがなくてギチギチだったら事故が起こる。

宇川 そうですね。

深田 だからTEAMとしてね、働けるといいんだよね。

宇川 チームとして、ですか。

深田 完全な人間なんていないし。みんな性質の差や、長所短所がちがうわけだから。お互いを必要として補い合えるってのが、TEAM。

僕らはきっとね、

宮崎 設立前のお話って、ほとんど聞いたことがなくて、とても勉強になりました。キリスト教の理念を背負いながら西陣の地に入って、どのようにみんなを巻き込みながら活動を展開されたのか、もう一歩踏み込んで聞きたいと思いました。

深田 そりゃあ、簡単な答えはないよね。そのときの状況とか、そこに根を下ろしているメンタリティとかあるじゃない。それを無視するか妥協するか。あるいは、巻き込まれるってのもひとつのチョイスだね。

宮崎 巻き込むんじゃなくて、巻き込まれる、ですか？

深田 僕らはきっとね、変化を求めてると思うんだよね。

宮崎 変化を求めている？

深田 僕らはキリスト教を基盤として活動をはじめたんだけど、そのキリスト教の旗が見えなかったり、振らなくてもいいと思ってるんだよ。

宮崎 そうなんですか？

深田 ひとりの人間がどれほどの価値があって、お互いを受け入れて、弱さを補いあって、力や知恵を持ちよって、よりよい社会を生きていく。それでいいんだと思うんだよね。

宮崎 まさに西陣会の理念ですね。

深田 求めていることと、求められていることは時にちがうかもしれない。だけども、そのちがいが、発酵していくための土壌になるんだよね。そこに染まっちゃうと変化が起きないんだから。

宮崎 ハッコウですか？

深田 味噌とかチーズ、酒とかの発酵ね。最近、「発酵」という言葉をよく使ってるんだけどね。

宮崎 はい。

深田 発酵された香りが漂ってくるというかさ、私もああいうような香りの人になりたいとかさ。金木犀のように、ほんのり香りを漂わせる人間であれば十分だと思うんだよね。

宮崎 僕も発酵していきたいと思います！

土屋 先生、今日はありがとうございました。

取材日：2021年9月15日（上賀茂教会）

その後、深田先生はアメリカ・ロサンゼルスのクレアモントで病気療養中でしたが、ご家族に見守られ、2022年6月25日に静かに天国に召されました。（89歳）